

科目名	日本文化論		科目コード	SC114	
英文名	Japanese Culture		科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(必修)	
担当教員	岡庭 義行	教員コード	159	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日・2時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応	<input checked="" type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける	<input type="radio"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	<input type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	<input type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探究する	<input type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	本講は、日本文化の歴史と事例を概観し、主に社会学、人類学、民俗学等の視点から解説を試みることで、「日本文化」に関する総合的な理解を深めることを目的とする。				
授業の狙い・到達目標	[到達目標①] 日本文化の固有性について、講義で解説した用語を用いて説明することができる。 [到達目標②] 日本文化の複層性について、具体的な事例を用いて説明することができる。 [到達目標③] 自文化と異文化との比較の中で、日本の文化と社会を相対化することができる。				
授業内容のレベル・関連科目	身近な日本の文化や社会に関心を持ち、自己の意見をまとめておくこと。日本の歴史、社会、文化等に関する関連科目を併せて学習することが望ましい。				
授業外学習(予習・復習)	[事前学習] 各回の講義テーマに自己の関心を結びつけながら、日本文化の多様な事例と日常の社会的経験を整理しておくこと。 [事後学習] 講義で学んだ事項を振り返り、体系化して理解の深化に努めること。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間
使用教科書	特になし				
参考書・その他教材	<ul style="list-style-type: none"> ・中川裕『アイヌ文化で読み解く「ゴールデンカムイ」』集英社(2019) ・和智正喜『ウルトラマンの愛した日本』宝島社新書(2013) ・船曳建夫『柳田国男』筑摩書房(2000) 				
課題に対するフィードバック	小課題・リアクションペーパーはコメントをつけて返却し、適宜、関連資料を付して解説する。				
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題レポート[到達目標①②] (50%)、 ・講義中の小課題・リアクション・ペーパー[到達目標③] (30%)、 ・講義への参加状況(20%) 				
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	日本の文化や社会に関する理解を通して、自己を見つめなおし、豊かな生活と適切な社会の結びつきについて、ともに考えていくことが期待されます。				
科目に関連した教員の実務経験	特になし				
担当教員への連絡方法	メールでの質問(okaniwa@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。授業終了後に、直接聞くことも可。				

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー日本文化の古層を探るー シラバスを精読し講義の概要と方法について確認しておくこと。 講義の目的や内容について確認し、以降の講義の目標と展望を深める。
2 回	学習内容 予習 復習	日本文化の古層ー神話的世界観ー 「古事記」「日本書紀」などの日本神話をあらかじめ概観しておくこと。 日本社会の形成に神話が果たした役割と歴史について振り返り、理解を深める。
3 回	学習内容 予習 復習	年中行事と信仰・伝承 日本各地に看取される伝統的な年中行事を1つ以上調べておくこと。 年中行事の意味について振り返り、その文化的体系性について理解を深める。
4 回	学習内容 予習 復習	通過儀礼 日本各地に看取される通過儀礼の事例について1つ以上調べておくこと。 通過儀礼の構造について振り返り、人間の成長に伴う各儀礼について理解を深める。
5 回	学習内容 予習 復習	伝統的家族観と祖先祭祀 日本における「イエ」制度や家族の類型について調べておくこと。 日本の伝統的家族観とその変化について振り返り、家族の現代的課題について理解を深める。
6 回	学習内容 予習 復習	食文化とタブー 日本人が「食べてよいもの」と「食べていけないもの」をそれぞれ1つ以上調べておくこと。 日本の食文化について振り返り、その歴史と構造について理解を深める。
7 回	学習内容 予習 復習	分類の文化史 時間、空間、色彩、音などの領域において日本に固有な分類体系を1つ以上調べておくこと 講義を振り返り、日本における自然事象の分類の体系について理解を深める。
8 回	学習内容 予習 復習	呪術、占術、予言 陰陽師に代表される日本文化における「呪術 (witchcraft)」の事例を1つ以上調べておくこと。 日本における呪術や予言の歴史的特性について振り返りその社会的意義について理解を深める。
9 回	学習内容 予習 復習	日本人論の古典「タテ社会の人間関係」と「甘えの構造」 講義で解説する2冊の日本人論について、事前に概観しておくこと それぞれの「日本人論」の特徴を概括し、現代の日本社会の特性について理解を深める。
10 回	学習内容 予習 復習	小泉八雲「怪談」 小泉八雲の生涯を概観し、あらかじめ配布するテキストから1作品以上を通読しておくこと 小泉八雲 (ラフカディオ・ハーン) のアイデンティティと日本文化の古層について理解を深める。
11 回	学習内容 予習 復習	世界遺産と日本文化 世界遺産条約の概要を確認し、日本における世界遺産の事例を1つ以上調べておくこと。 世界遺産条約の現状と課題を振り返り国際社会における日本文化の評価について理解を深める。
12 回	学習内容 予習 復習	日本のサブカルチャー 社会経済的に大きな影響力を持つ日本のサブカルチャーの事例を1つ以上調べておくこと。 講義を振り返り、日本経済におけるサブカルチャーの意義と課題について理解を深める。
13 回	学習内容 予習 復習	日本文化の多様性ー北海道と沖縄ー 北海道と沖縄の文化的事象について1つ以上調べておくこと。 日本の歴史と地域性を理解を通して、日本文化の多様性について理解を深める。
14 回	学習内容 予習 復習	世界の中の日本文化 日本の中の世界文化 世界の中の日本文化と日本の中の世界文化をそれぞれ1つ以上調べておくこと 講義を振り返り、グローバル化に伴う日本文化の拡張と変容について理解を深める。
15 回	学習内容 予習 復習	まとめ・総括ー拡張する日本文化ー これまでの講義を振り返り、可能な限り近接する講義や日常の問題意識に結びつけること。 学習内容を各自の学問的関心に接続させ、今後の学びを発展させていく。

科目名	日本語学概論Ⅱ			科目コード	SC110	
英文名	Outline of Japanese Linguistics II			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)	
担当教員	部田 和美		教員コード	153	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	水曜日/3時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける	○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
		5.学習の過程で発見した課題を探求する		6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	日常的な言語現象を観察し、なぜそのような使い方や言い方になるのか、そこにどのような規則があるのかについて学生自身が考え、日本語の言語学的特徴について学んでいく。主に助詞や文の組み立て、時制、モダリティといった、日本語学の基礎的な文法を扱う。					
授業の狙い・到達目標	日本語を「外国語」として客観的に捉えられるようになる。日常で何気なく使っている日本語からその言語的特徴を見出し理解することで、日本語について外国人にも分かりやすく説明できるような知識を身に付けることができる。また、普段から見聞きする言葉に意識を向け、疑問を持ったり答えを導き出したりする思考力を身につけることができる。					
授業内容のレベル・関連科目	留学生は日本語文法の知識が必要 関連科目：日本語学概論Ⅰ					
授業外学習(予習・復習)	予習)教員が指示する次回テーマに関する課題 復習)授業場内容に関する復習課題。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教員が準備したプリントを使用。					
参考書・その他教材	『日本語要説改訂版』ひつじ書房 益岡隆志・田窪行則『基礎日本語文法改訂版』くろしお出版 庵功雄『新しい日本語入門第2版』スリーエーネットワーク					
課題に対するフィードバック	宿題の復習課題を全員で確認し、簡単な復習テストを行う。					
成績評価方法	期末テスト70%、課題提出等30%					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	普段から身の回りで使われている日本語を観察し問題意識を持つこと。留学生は講義内容をより確実に理解するため、基本的な日本語文法はしっかり身に付けておくこと。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	torita@aikoku-u.org					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション 「日本語学」とは？「は」と「が」① シラバスをよく読んでおく 教員が提示した復習課題を行う
2 回	学習内容 予習 復習	「は」と「が」② 格助詞 教員が提示した次回内容に関する課題を行う 教員が提示した復習課題を行う
3 回	学習内容 予習 復習	自動詞・他動詞 教員が提示した次回内容に関する課題を行う 教員が提示した復習課題を行う
4 回	学習内容 予習 復習	ヴォイス①受動態 教員が提示した次回内容に関する課題を行う 教員が提示した復習課題を行う
5 回	学習内容 予習 復習	ヴォイス②可能態 教員が提示した次回内容に関する課題を行う 教員が提示した復習課題を行う
6 回	学習内容 予習 復習	ヴォイス③使役態 教員が提示した次回内容に関する課題を行う 教員が提示した復習課題を行う
7 回	学習内容 予習 復習	時制①テンス 教員が提示した次回内容に関する課題を行う 教員が提示した復習課題を行う
8 回	学習内容 予習 復習	時制②アスペクト 教員が提示した次回内容に関する課題を行う 教員が提示した復習課題を行う
9 回	学習内容 予習 復習	モダリティ① 教員が提示した次回内容に関する課題を行う 教員が提示した復習課題を行う
10 回	学習内容 予習 復習	モダリティ② 教員が提示した次回内容に関する課題を行う 教員が提示した復習課題を行う
11 回	学習内容 予習 復習	とりたて 教員が提示した次回内容に関する課題を行う 教員が提示した復習課題を行う
12 回	学習内容 予習 復習	指示詞 教員が提示した次回内容に関する課題を行う 教員が提示した復習課題を行
13 回	学習内容 予習 復習	授受① 教員が提示した次回内容に関する課題を行う 教員が提示した復習課題を行う
14 回	学習内容 予習 復習	授受② 前の週に教員が出した課題をしておく 教員が提示した復習課題を行う
15 回	学習内容 予習 復習	これまでのまとめ これまでの内容で不明な点があればまとめておく 教員が提示した復習課題を行う

科目名	日本社会史		科目コード	SC105	
英文名	Social History of Japan		科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)	
担当教員	梶原 健嗣	教員コード	145	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	火曜日/2時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応	<input checked="" type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	<input type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
		5.学習の過程で発見した課題を探求する	<input type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	政治史・外交史の分野で日本の近現代を学ぶ日本史学概論(史学概論)に対して、本講義では社会経済史として、日本の近現代史を学ぶ。				
授業の狙い・到達目標	前半では、プレモダンとしての江戸時代から講義を始め、明治時代を中心に日本の近代化を概説する。後半の戦後社会では、現代社会の様々な問題の起源を探る形で、テーマ別に戦後史を概説する。そのような学修を通じて、歴史的に形成されてきた現代を理解できるようになる。				
授業内容のレベル・関連科目	日本理解・専門科目であり、若干、発展的な内容を含む。日本史学概論(史学概論)や日本文化入門の講義は、基礎学習の意味をもつ。また、歴史と現代(歴史と現代Ⅱ)をあわせて受講することで、理解が深まるものとする。				
授業外学習(予習・復習)	日本文化入門(後半部分)、日本史学概論、歴史と現代が、本講義の関連科目である。これらの講義を併せて履修する学生が、その講義レジュメを参照することが、有益な予復習となる。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教員が自作のレジュメを用意し、教科書は使用しない。				
参考書・その他教材	特になし。 ただ、講義レジュメに引用した資料などは、できれば帰宅後の復習のなかで参照してほしい。				
課題に対するフィードバック	特になし。 講義中に行う小テストは、その場で解説する。				
成績評価方法	平常点15%、筆記試験85%(中間テスト(20%)含む)				
成績評価基準	授業の狙いにあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	復習をきちんとすること。特に、小テストの復習は入念に。 講義とはいえ、「なぜ?」という問いを大事にしながら学習すること。				
科目に関連した教員の実務経験	特になし				
担当教員への連絡方法	メールでの質問(kajiwara@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。 もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。				

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション, 講義の概要やテストの方法などを説明する。 シラバスをよく読んでおくこと。 配布したレジュメを見返すとともに, 左ページ「授業外学習」で例示した復習をすること。
2 回	学習内容 予習 復習	江戸時代①, 近代的発展の基礎が築かれた時代として, 江戸時代を捉え直す。 Pre-Modernとしての江戸時代とはどういうことか, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
3 回	学習内容 予習 復習	江戸時代②, 開国に至る流れを概説し, 明治期の国際化を学ぶ基礎を概説する。 開国から幕末の騒乱の時期について, 社会・経済の視点から, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
4 回	学習内容 予習 復習	明治時代①, 開国と国際化・近代化を概説し, 明治維新の社会経済的意義を理解する。 開国後の混乱, 社会の変容について, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
5 回	学習内容 予習 復習	明治時代②, 殖産興業をキーワードに, 明治前期の社会経済史を概説する。 富岡製糸場など, 殖産興業の時代を代表する工場等について, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
6 回	学習内容 予習 復習	明治時代③, 明治時代を中心に, 戦前の産業・交通の発展を概説する。 第4～5回のレジュメを見返すとともに, 参考資料から発展的復習をしておくこと。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
7 回	学習内容 予習 復習	大正時代, 都市化と交通の発展, 関東大震災とその影響, 植民地統治などを概説する。 大正時代の都市生活と社会・文化について, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
8 回	学習内容 予習 復習	前半のまとめ。中間テスト形式で, 第2回～第7回までの講義をおさらいする。 第2回～第7回までの講義を改めて復習してくること。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
9 回	学習内容 予習 復習	戦後史①, 戦後復興史の概説。第10回以降の講義の基礎となる概説を行う。 戦後史の基本的な流れを, 自分なりに学習してみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
10 回	学習内容 予習 復習	戦後史②, 過疎化・過密化をテーマに, 戦後社会の課題を概説する。 戦後日本の人口移動について, 東京圏を中心に学習してみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
11 回	学習内容 予習 復習	戦後史③, 都市化と公害をテーマに, 戦後社会の課題を解説する。 四大公害病について, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
12 回	学習内容 予習 復習	戦後史④, 戦後日本の災害(水害, 震災)をテーマに, 戦後社会の課題を概説する。 戦後の主要な災害について, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
13 回	学習内容 予習 復習	戦後史⑤, 少子高齢化をテーマに, 戦後社会の課題を概説する。 少子高齢化の何が問題か, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
14 回	学習内容 予習 復習	戦後史⑥, 国際化・グローバル化をテーマに, 戦後社会の課題を概説する。 日本社会が, 現在どれほどグローバル化しているか, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
15 回	学習内容 予習 復習	後半のまとめ。中間テスト形式で, 第9回～第14回までの講義をおさらいする。 第9回～第14回までの講義を改めて復習してくること。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。

科目名	歴史と現代		科目コード	SC106	
英文名	History and Contemporary Society		科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)	
担当教員	梶原 健嗣	教員コード	145	単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	火曜日/2時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
		5.学習の過程で発見した課題を探求する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	日本社会史(歴史と現代 I)が、江戸時代からの社会経済史を通史的に概説したのに対して、本講義では地域史として、現代社会につながる「歴史」を概説する。				
授業の狙い・到達目標	地域には様々な歴史の刻印がある。そうした歴史の刻印を掘り起こし、現代社会に生きる私たちが歴史を学ぶ意義を実感できる講義を目指す。そのような学修を通じ、日本社会の多様性、社会の重層的な発展に気が付けるようになる。				
授業内容のレベル・関連科目	日本理解専攻の専門科目であり、少し発展的な内容を含む。日本史学概論(史学概論)や日本文化入門の講義は、基礎学習の意味をもつ。また、日本社会史(歴史と現代 I)をあわせて受講することで、理解が深まるものと考ええる。				
授業外学習(予習・復習)	日本文化入門(後半部分)、史学概論、歴史と現代が、本講義の関連科目である。これらの講義を併せて履修する学生が、その講義レジュメを参照することが、有益な予復習となる。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教員が自作のレジュメを用意し、教科書は使用しない。				
参考書・その他教材	特になし。 ただ、講義レジュメに引用した資料などは、できれば帰宅後の復習のなかで参照してほしい。				
課題に対するフィードバック	特になし。 講義中に行う小テストは、その場で解説する。				
成績評価方法	平常点15%、筆記試験85%(中間テスト(20%)含む)				
成績評価基準	授業の狙いにあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	復習をきちんとすること。特に、小テストの復習は入念に。 講義とはいえ、「なぜ?」という問いを大事にしながら学習すること。				
科目に関連した教員の実務経験	特になし				
担当教員への連絡方法	メールでの質問(kajiwara@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。				

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション, 講義の概要やテストの方法などを説明する。 シラバスをよく読んでおくこと。 配布したレジュメを見返しすとともに, 左ページ「授業外学習」で例示した復習をすること。
2 回	学習内容 予習 復習	【千葉県の歴史と現代①】北総地域の発展史を成田を中心に概説する。 「加曽利貝塚博物館・特別史跡加曽利貝塚」(Youtube)は, おすすめ。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
3 回	学習内容 予習 復習	【千葉県の歴史と現代②】北総地域の発展史を四街道・佐倉を中心に概説する。 大学正門前の碑に書かれている文字を読んでみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
4 回	学習内容 予習 復習	【江戸／東京の歴史と現代】家康入府以来の江戸(東京)の歴史を概説する。 東京の発展は災害と不即不離の関係にある。明暦の大火や関東大震災について, 調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
5 回	学習内容 予習 復習	【京都の歴史と現代】世界遺産「古都・京都の文化財」を中心に, その歴史を概説する。 世界遺産を構成する, 古都・京都の文化財について, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
6 回	学習内容 予習 復習	【大阪の歴史と現代】古代の難波津の時代から, 商都・大阪の発展史を概説する。 大阪城築城以降の大阪の歴史について, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
7 回	学習内容 予習 復習	【神戸の歴史と現代】大輪田泊から近代神戸, そして阪神大震災までを概説する。 阪神大震災が現代社会に与えた影響について, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
8 回	学習内容 予習 復習	前半のまとめ。中間テスト形式で, 第2回～第7回までの講義をおさらいする。 第2回～第7回までの講義を改めて復習してくること。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
9 回	学習内容 予習 復習	【横浜の歴史と現代】幕末の開港から, 国際都市・横浜の150年を概説する。 横浜も関東大震災の影響は大きかった。関東大震災について, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
10 回	学習内容 予習 復習	【長崎の歴史と現代】「鎖国」下で, 4つの口の1つだった長崎の歴史を概説する。 長崎の近代では, 原爆投下の影響も取り上げる。これにつき, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
11 回	学習内容 予習 復習	【広島県の歴史と現代】近代広島の発展を, 「軍都・広島」の視点を中心に, 概説する。 近代以前の広島では, 厳島神社を取り上げる。自分なりに, 調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
12 回	学習内容 予習 復習	【福島県の歴史と現代】戊辰戦争, 安積疎水, 福島第一原発などについて, 概説する。 常磐炭鉱や福島第一原発事故などについて, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
13 回	学習内容 予習 復習	【沖縄の歴史と現代】琉球王国の時代から, 沖縄戦・米軍占領までの歴史を概説する。 琉球王国の時代や沖縄戦について, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
14 回	学習内容 予習 復習	【北海道の歴史と現代】「蝦夷地」と呼ばれた時代から, 現在までの歴史を概説する。 アイヌ民族と日本人の交流などについて, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
15 回	学習内容 予習 復習	後半のまとめ。中間テスト形式で, 第9回～第14回までの講義をおさらいする。 第9回～第14回までの講義を改めて復習してくること。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。

科目名	現代日本事情Ⅱ		科目コード	SC109	
英文名	Contemporary Japan II		科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)	
担当教員	部田 和美	教員コード	153	単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	月曜日/3時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応	<input checked="" type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	<input type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	<input type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探求する		6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	前半は「時事問題」「生活」「文化」といったテーマの話題を毎回1つ定め、関連記事や資料等を読み、内容を把握し自身の意見をまとめて形にする。後半は、学生自らが前半で扱ったテーマから特に関心のあるものを1つ選び、より深く掘り下げ、個人発表を行う。				
授業の狙い・到達目標	時事問題や生活文化に関する知識と理解を深め、自ら問題提起をして解決策を考える力をつける。また、自身の意見を簡潔にまとめ相手に伝える能力を身につけることができる。				
授業内容のレベル・関連科目	関連科目:現代日本事情Ⅰ				
授業外学習(予習・復習)	予習)次週の資料を前もって読み、理解しておく。 復習)扱ったテーマについて自身で調べまとめる。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教員、担当学生が用意した資料を使用				
参考書・その他教材	都度講義内で指定する。				
課題に対するフィードバック	毎回の作文課題の修正点を確認し、重要な点は授業で共有する。				
成績評価方法	個人発表40%、毎週の作文課題40%、平常点20%				
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	普段から様々な時事ニュースや身近な出来事に関心を持ち、それらについて考える習慣をつけてほしい。				
科目に関連した教員の実務経験	特になし				
担当教員への連絡方法	torita@aikoku-u.org				

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション 時事問題(1) 社会生活の問題① 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する 教員の提示した課題を行う
2 回	学習内容 予習 復習	時事問題(2) 社会生活の問題② 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
3 回	学習内容 予習 復習	時事問題(3) 社会生活の問題③ 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
4 回	学習内容 予習 復習	時事問題(4) 社会生活の問題④ 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
5 回	学習内容 予習 復習	時事問題(5) 国際社会と日本① 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
6 回	学習内容 予習 復習	時事問題(6) 国際社会と日本② 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
7 回	学習内容 予習 復習	日本の文化(1) 日本の行事と習慣① 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
8 回	学習内容 予習 復習	日本の文化(2) 日本の行事と習慣② 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
9 回	学習内容 予習 復習	日本の文化(3) 国際社会と日本人① 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
10 回	学習内容 予習 復習	日本の文化(4) 国際社会と日本人② 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
11 回	学習内容 予習 復習	日本の文化(5) 国際社会と日本人③ 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
12 回	学習内容 予習 復習	学生の個人発表(1) 発表に向けての準備 教員の提示した課題を行う
13 回	学習内容 予習 復習	学生の個人発表(2) 発表に向けての準備 教員の提示した課題を行う
14 回	学習内容 予習 復習	学生の個人発表(3) 発表に向けての準備 教員の提示した課題を行う
15 回	学習内容 予習 復習	発表を終えての反省とまとめと授業全体のまとめ 授業で扱ったプリント等を再読し、自身で振り返りを行う 特になし

科目名	東洋文化論		科目コード	SC115	
英文名	Oriental Culture		科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)	
担当教員	山崎 寿美子	教員コード	147	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	水曜日/1時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応	<input type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	<input checked="" type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
		5.学習の過程で発見した課題を探求する	<input type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	東洋が西洋からどのようにイメージされ、記述されてきたか、文化の表象という問題を考える。そのうえで、東洋的な精神や文化的様相について議論する。				
授業の狙い・到達目標	「オリエント(東洋)」というイメージがどのように作られてきたかについて、文献や資料を通して、植民地時代の状況をふまえて理解を深められるようになる。また、履修生の出身国・出身地域の文化がどのように表現されているかについて、客観的に考えることができるようになる。				
授業内容のレベル・関連科目	新聞の国際欄、文化欄などが読めると望ましい。また、英語の資料もとりあげるので、英語の読解力も必要とする。(関連科目)文化人類学				
授業外学習(予習・復習)	各回の授業の冒頭に小テストを行うので、授業で配布された資料や教員の講義を振り返り、理解を深めておくこと。また、簡単な課題を出す場合もあるので、教員の指示に従って提出すること。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	指定しない。				
参考書・その他教材	授業ごとに資料を配布するとともに、テーマに合わせて随時参考文献を指示する。				
課題に対するフィードバック	前週の授業の復習を兼ねて小テストを添削コメントをする。				
成績評価方法	授業への積極的な参加(30%)、小テスト(30%)、レポート(40%)で評価する。				
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	普段から自文化や異文化に関心を抱き、東洋と西洋という分け方について自分なりの意見をもっておくこと。				
科目に関連した教員の実務経験	特になし				
担当教員への連絡方法	質問はメール(yamazaki@aikoku-u.org)で受け付ける。				

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション—授業の目的、内容、進め方について説明する。 シラバスを読み、授業の内容についておおまかに理解しておくこと。 授業の趣旨を理解し、今後の取り組みについてイメージをもっておくこと。
2 回	学習内容 予習 復習	西洋と東洋という分け方について批判的に考える。 西洋、東洋のイメージについて考えてくること。 授業前のイメージと講義の内容を比較し、感想をまとめて提出する。
3 回	学習内容 予習 復習	芸術作品を通して西洋からみた東洋について考える。 事前に配布した資料に目を通し、芸術作品の印象をまとめてくること。 授業前のイメージと講義の内容を比較し、感想をまとめて提出する。
4 回	学習内容 予習 復習	『文明の生態史観』(梅棹忠夫著)を読む①西洋と東洋という分け方の問題点について考える。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
5 回	学習内容 予習 復習	『文明の生態史観』(梅棹忠夫著)を読む②アジアの中の日本という捉え方について考える。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
6 回	学習内容 予習 復習	これまでの授業のまとめを行なう。 第2回から第5回までの資料を読み返しておくこと。 授業で指示された課題の内容にとりくみ提出すること。
7 回	学習内容 予習 復習	文化を書くことの問題点について人類学の視点から考える。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
8 回	学習内容 予習 復習	表象とは何かについて概説する。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
9 回	学習内容 予習 復習	アジアにおける植民地統治について概観する。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
10 回	学習内容 予習 復習	探検記を読み、植民地時代のインドシナについて学ぶ。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
11 回	学習内容 予習 復習	東南アジアの植民地統治に関する論文を読む。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
12 回	学習内容 予習 復習	植民地博覧会を例に、表象の問題点を考える。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
13 回	学習内容 予習 復習	近代国家の形成過程で国民がどのように創られてきたかについて学ぶ。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
14 回	学習内容 予習 復習	観光における民族や文化の表象について考える。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
15 回	学習内容 予習 復習	これまでの授業のまとめを行なう。 配布資料を読み返し、全ての回の授業内容を振り返っておくこと。 全体を振り返り、授業の論点をまとめておく。

科目名	国際関係論		科目コード	SC104	
英文名	International Studies		科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)	
担当教員	梶原 健嗣	教員コード	145	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	月曜日/2時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応	<input type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	<input type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
		5.学習の過程で発見した課題を探求する	<input checked="" type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	20世紀、とりわけ戦後の国際関係を政治・経済両分野で的確に理解することをも目的とする。その時、歴史の流れを正確に理解することを重点目標とする。				
授業の狙い・到達目標	国際政治では、第1次世界大戦時の国際連盟に遡って国連の成り立ちや役割等を講義する。経済面では、ブレトンウッズ体制の形成から変容の過程を米国、アジアを中心に講義する。国際政治・経済の側面から、国際関係論の基礎を理解できるようになる。				
授業内容のレベル・関連科目	これからのグローバル社会に生きるうえで、不可欠な知識を教授するもので、基礎レベルである。「国際協力学」が関連科目で、併せて受講すると理解に幅と深みが出る。				
授業外学習(予習・復習)	講義では、重要事項をビジュアルで紹介していく。そのURLをたどって当該ページを閲覧することは、発展的な復習として、理解を深めるのに効果的である。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教員が自作のレジユメを用意し、教科書は使用しない。				
参考書・その他教材	特になし。 ただ、講義レジユメに引用した資料などは、できれば帰宅後の復習のなかで参照してほしい。				
課題に対するフィードバック	特になし。 講義中に行う小テストは、その場で解説する。				
成績評価方法	平常点15%、筆記試験85%(中間テスト(20%)含む)				
成績評価基準	授業の狙いにあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	復習をきちんとすること。特に、小テストの復習は入念に。 講義とはいえ、「なぜ?」という問いを大事にしながら学習すること。				
科目に関連した教員の実務経験	特になし				
担当教員への連絡方法	メールでの質問(kajiwara@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。				

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション、講義の概要やテストの方法などを説明する。 シラバスをよく読んでおくこと。 配布したレジュメを見返すとともに、左ページ「授業外学習」で例示した復習をすること。
2 回	学習内容 予習 復習	国際政治①、第1次世界大戦から、国際連盟が誕生する(1920)までの歴史を概説する。 第1次世界大戦について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
3 回	学習内容 予習 復習	国際政治②、第2次世界大戦の原因と経緯。ヨーロッパ、アジアを中心に概説する。 第2回講義を復習したうえで、第2次世界大戦について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
4 回	学習内容 予習 復習	国際政治③、第3回講義を踏まえて、国連の仕組みや主要機関を概説する。 第2回、3回講義を復習し、2度の世界大戦の原因を把握しておくこと。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
5 回	学習内容 予習 復習	国際政治④、ロシア革命とソ連の成立、冷戦の始まりと展開の基本を概説する。 社会主義国について、その特徴と問題点を自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
6 回	学習内容 予習 復習	国際政治⑤、冷戦下で4つの国が分断国家となった。その歴史的展開を概説する。 4つの分断国家(ドイツ、ベトナム、朝鮮半島、中国)について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
7 回	学習内容 予習 復習	国際政治⑥、冷戦崩壊後の国際情勢を、なおも続く国際紛争・テロを中心に概説する。 湾岸戦争、9.11テロ、イラク戦争などを自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
8 回	学習内容 予習 復習	国際政治⑦、前半のまとめ。中間テスト形式で、第2回～第7回までの講義をおさらいする。 第2回～第7回までの講義を改めて復習してくること。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
9 回	学習内容 予習 復習	国際経済①、第2次世界大戦の経済的原因から、ブレトンウッズ体制の意義を理解する。 世界恐慌(1929)について、自分なりに調べてみること。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
10 回	学習内容 予習 復習	国際経済②、戦後のアメリカ経済、1970年代のブレトンウッズ体制の変容を概説する。 ベトナム戦争の経済的意義について、自分なりに調べてみること。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
11 回	学習内容 予習 復習	国際経済③、オイルショックとその影響につき、日米欧を中心に概説する。 オイルショックについて、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
12 回	学習内容 予習 復習	国際経済④、中国経済の変容。中国経済の発展の経緯や特徴をを概説する。 人民公社の時代、改革開放政策について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
13 回	学習内容 予習 復習	国際経済⑤、開発独裁とアジアの経済成長。韓国を中心に概説する。 開発独裁国家の歩みについて、自分なりに調べてみること。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
14 回	学習内容 予習 復習	国際経済⑥、プラザ合意(1985)とアジア経済危機(1997)を概説する。 第10回～第13回講義を復習してくること。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
15 回	学習内容 予習 復習	国際経済⑦、後半のまとめ。中間テスト形式で、第9回～第14回までの講義をおさらいする。 第9回～第14回までの講義を改めて復習してくること。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。

科目名	バイリンガル教育論			科目コード	SC111	
英文名	Bilingual Education			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)	
担当教員	清水 聖子		教員コード	132	単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	月曜日/1時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	<input type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける		<input checked="" type="radio"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	<input type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探求する		<input type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	「日本語教師養成サポートプログラム」必須科目。言語理解の過程と言語習得・発達について学ぶ。					
授業の狙い・到達目標	日本語を学ぶ学習者の言語理解の過程や言語習得・発達、学習ストラテジーなどを理解することができる。また、学んだ知識は後に学習者の日本語教育における効果的な指導方法ができるようになる。キーワードとして、教育と心理に関わる領域のうち、⑦言語理解の過程(談話理解、言語学習)、⑧言語習得・発達(習得過程(第一言語・第二言語)、⑩学習ストラテジーの内容を講義する。					
授業内容のレベル・関連科目	留学生はJLPTN2相当以上の日本語力が必要。関連科目:「発達心理学」、「認知心理学」					
授業外学習(予習・復習)	教科書の内容をより深く理解するために、予習として事前に教科書を読んでくること。意味がわからない語彙や日本語表現などがあったら、調べておくこと。復習として、教科書を読み直すこと。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間
使用教科書	奥野由紀子 『超基礎・第二言語習得研究』くろしお出版					
参考書・その他教材	特になし					
課題に対するフィードバック	各章の終わりに確認小テストをする。翌週授業でフィードバック(答え合わせ)を行う。					
成績評価方法	確認小テスト80%、レポート20%で総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのぐらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	小テストは教科書持ち込みのみ許可する。したがって、教科書をコピーしたプリントを用いて小テストを受ける場合は成績に反映されないので、注意してください。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。(mail to :shimizu@aikoku-u.org) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。					

授業スケジュール

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー授業の目的と内容、授業の進め方などについて学ぶ シラバスを熟読し、授業の概要についておおむね理解しておく 授業の目的・内容、授業の進め方などについて振り返り、理解を深める
2 回	学習内容 予習 復習	第二言語習得(SLA)研究とは 教科書の第1章を読んでくる 教科書を読み直し、学んだことを確認する
3 回	学習内容 予習 復習	二つの言語習得観と言語移転のとらえ方 教科書の第2章を読んでくる 教科書を読み直し、学んだことを確認する
4 回	学習内容 予習 復習	「エラー」のとらえ方の変遷 教科書の第3章を読んでくる 教科書を読み直し、学んだことを確認する
5 回	学習内容 予習 復習	SLAの認知プロセス 教科書の第4章を読んでくる 教科書を読み直し、学んだことを確認する
6 回	学習内容 予習 復習	個人さがSLAに与える影響 教科書の第5章を読んでくる 教科書を読み直し、学んだことを確認する
7 回	学習内容 予習 復習	SLAの認知プロセスの環境と特徴 教科書の第6章を読んでくる 教科書を読み直し、学んだことを確認する
8 回	学習内容 予習 復習	社会とつながるSLA研究 教科書の第7章を読んでくる 教科書を読み直し、学んだことを確認する
9 回	学習内容 予習 復習	CLD児の言語習得 教科書の第8章を読んでくる 教科書を読み直し、学んだことを確認する
10 回	学習内容 予習 復習	CLD児への教育と支援 教科書の第9章を読んでくる 教科書を読み直し、学んだことを確認する
11 回	学習内容 予習 復習	SLA研究に基づく日本語指導(1) 教科書の第10章を読んでくる 教科書を読み直し、学んだことを確認する
12 回	学習内容 予習 復習	SLA研究に基づく日本語指導(2) 教科書の第11章を読んでくる 教科書を読み直し、学んだことを確認する
13 回	学習内容 予習 復習	SLAと評価 教科書の第12章を読んでくる 教科書を読み直し、学んだことを確認する
14 回	学習内容 予習 復習	SLA研究の今、そしてこれから 教科書の第15章を読んでくる 教科書を読み直し、学んだことを確認する
15 回	学習内容 予習 復習	まとめ 教科書を読み返す これまでの授業で取り上げた内容について振り返り、レポートにまとめる

科目名	観光学Ⅱ		科目コード	SC101	
英文名	Tourism Studies Ⅱ		科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)	
担当教員	吉元 菜々子	教員コード	165	単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	金曜日・3時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける	○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探求する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	観光は社会的な現象であり、それ単独では理解できず幅広い社会理解が必要となる。本授業では観光について、それを取り巻くより広い領域との関連で捉えることで、観光とわたしたちの生活世界との関係性を探り、現代社会の理解を深める。				
授業の狙い・到達目標	観光と現代社会とのつながりについてさまざまなテーマから探求することを通じて、観光現象を捉えるための多様な視点を獲得し、観光学を包括的かつ体系的に理解できるようになる。				
授業内容のレベル・関連科目	観光学の入門レベルの講義であるが、若干の発展的な内容も含む。「観光学概論(観光学Ⅰ)」の履修を推奨する。				
授業外学習(予習・復習)	事前に授業計画を確認し、各回のトピックについて自分なりに調べるなどの予習をすること。また復習として、授業後は配布資料や自分で作成したノートをもとに授業内容を振り返ること。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教科書は使用しない。必要に応じて授業内で資料を配布する。				
参考書・その他教材	大橋昭一ほか編(2014)『観光学ガイドブック——新しい知的領野への旅立ち』ナカニシヤ出版。 西川克之ほか編(2019)『フィールドから読み解く観光文化学——「体験」を「研究」にする16章』ミネルヴァ書房。				
課題に対するフィードバック	授業内で前回の授業のリアクションペーパーを適宜紹介し、質問への回答やフィードバックを行う。				
成績評価方法	平常点(40%)、レポート(60%)により評価する。				
成績評価基準	学習の到達目標にどの位到達したかを、本学の学業成績判定に関する規定の基準に基づき評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	日ごろから観光に関連するニュースを意識し、調べる習慣をつけること。 授業計画は、受講生の理解度や要望に応じて若干の変更を加える場合がある。				
科目に関連した教員の実務経験	特になし。				
担当教員への連絡方法	質問等はメール(yoshimoto@aikoku-u.org)にて受け付ける。				

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション——社会の中の観光、観光の中の社会 シラバスを読み、授業の概要と目的について理解しておくこと。 授業の目的を理解し、今後の授業計画について確認すること。
2 回	学習内容 予習 復習	観光とホスピタリティ 観光における「おもてなし」と家に来客があった際の「おもてなし」の違いについて考えておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
3 回	学習内容 予習 復習	観光と宗教 聖地巡礼と観光との違いについて考え、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
4 回	学習内容 予習 復習	観光と環境 観光がもたらす環境問題について考え、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
5 回	学習内容 予習 復習	観光と開発 観光地化することによる地域社会への影響にはどのようなものがあるかについて考えておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
6 回	学習内容 予習 復習	観光と移動 観光のための移動手段にはどのようなものがあるかについてまとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
7 回	学習内容 予習 復習	観光と文化 これまで、観光において地域の伝統文化に触れた経験があるかどうか考え、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
8 回	学習内容 予習 復習	観光と家族 家族旅行を計画する上で重視するポイントについて考え、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
9 回	学習内容 予習 復習	観光とジェンダー 女性が観光業でどのような業務に従事しているかについて考え、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
10 回	学習内容 予習 復習	観光と政治 「楽園」としてイメージされる観光地にはどのような場所があるかについて考え、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
11 回	学習内容 予習 復習	観光と遊び これまでの自分の観光経験において「楽しさ」を感じた瞬間について考え、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
12 回	学習内容 予習 復習	観光と民族 世界の先住民族にはどのような人びとがいるかについて調べ、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
13 回	学習内容 予習 復習	観光とグローバリゼーション インターネットで知る情報と実際に現地へ足を運んで知る情報との違いについて考えておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
14 回	学習内容 予習 復習	観光と食 観光地で食事をする際に重視するポイントについて考え、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
15 回	学習内容 予習 復習	まとめ——観光と現代社会 これまでの授業で配布したレジュメを振り返り、不明点や疑問点を明確にしておくこと。 これまでの授業を振り返り、受講内容について理解を深めること。

科目名	地域文化と観光		科目コード	SC103	
英文名	Tourism and Local Cultures		科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)	
担当教員	吉元 菜々子	教員コード	165	単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	木曜日・3時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応	<input checked="" type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける	<input type="radio"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	<input type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	<input type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探求する	<input type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	観光は私たちにとってごく身近な娯楽となった一方、それがもたらす弊害——環境破壊、生活環境の悪化、利益の不平等配分、伝統文化の崩壊など——についても指摘されている。本授業では、観光による弊害への反省のもと登場した「持続可能な観光」について、日本や世界の具体的な事例とともに学び、地域コミュニティによる主体的な観光運営の可能性について探る。				
授業の狙い・到達目標	観光において地域文化を主体的に発信する住民の人びとの姿を知ることを通じて、弊害が指摘される観光の新たな形と可能性を追求するための知識と姿勢を身につけることができる。				
授業内容のレベル・関連科目	観光学の入門レベルの講義であるが、若干の発展的な内容も含む。「観光学概論(観光学Ⅰ)」、「観光学Ⅱ」の履修を推奨する。				
授業外学習(予習・復習)	事前に授業計画を確認し、各回のトピックについて自分なりに調べるなどの予習をすること。また復習として、授業後は配布資料や自分で作成したノートをもとに授業内容を振り返ること。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教科書は使用しない。必要に応じて授業内で資料を配布する。				
参考書・その他教材	橋本和也(2018)『地域文化観光論——新たな観光学への展望』ナカニシヤ出版。 橋本和也編(2019)『人をつなげる観光戦略——人づくり・地域づくりの理論と実践』ナカニシヤ出版。				
課題に対するフィードバック	授業内で前回の授業のリアクションペーパーを適宜紹介し、質問への回答やフィードバックを行う。				
成績評価方法	平常点(40%)、レポート(60%)により評価する。				
成績評価基準	学習の到達目標にどの位到達したかを、本学の学業成績判定に関する規定の基準に基づき評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	日ごろから観光に関連するニュースを意識し、調べる習慣をつけること。 授業計画は、受講生の理解度や要望に応じて若干の変更を加える場合がある。				
科目に関連した教員の実務経験	特になし。				
担当教員への連絡方法	質問等はメール(yoshimoto@aikoku-u.org)にて受け付ける。				

授業スケジュール

地域文化と観光

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション——観光がもたらす諸問題 シラバスを読み、授業の概要と目的について理解をしておくこと 授業の目的を理解し、今後の授業計画について確認すること。
2 回	学習内容 予習 復習	大衆観光から「持続可能な観光」へ 観光にはどのような種類があるかについて考え、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
3 回	学習内容 予習 復習	まちづくりと観光開発 「まちづくり」という言葉の意味を調べ、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
4 回	学習内容 予習 復習	地域文化と観光資源 自分の住む街の魅力とは何かについて、外から来る観光客の目線で考え、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
5 回	学習内容 予習 復習	コミュニティ・ベースド・ツーリズム 観光客を呼ぶために必要なプロセスについて考え、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
6 回	学習内容 予習 復習	地域アイデンティティと観光 海外からの観光客に対して日本について説明するとしたらどのようにするか、考えておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
7 回	学習内容 予習 復習	エコ・ツーリズム 観光客がもたらす環境や自然への悪影響にはどのようなものがあるかについて考えておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
8 回	学習内容 予習 復習	ヘリテージ・ツーリズム 日本の世界遺産について調べ、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
9 回	学習内容 予習 復習	エスニック・ツーリズム 世界の先住民について調べ、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
10 回	学習内容 予習 復習	グリーン・ツーリズム 「農泊」という言葉の意味について調べ、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
11 回	学習内容 予習 復習	ダーク・ツーリズム 観光地となった戦争や災害の現場にはどのような場所があるかについて調べ、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
12 回	学習内容 予習 復習	ボランティアとツーリズム 旅行会社で販売されているボランティア・ツアーにはどのようなものがあるかを調べ、まとめること。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
13 回	学習内容 予習 復習	メディカル・ツーリズムとヘルス・ツーリズム 国境を越えて医療を受けるメリットとデメリットについて考え、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
14 回	学習内容 予習 復習	ライフスタイル・ツーリズム 観光と移住との違いについて考え、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
15 回	学習内容 予習 復習	まとめ——地域と観光の関係性 これまでの授業で配布したレジュメを振り返り、不明点や疑問点を明確にしておくこと。 これまでの授業を振り返り、今後の観光の可能性について自分なりの考えをまとめること

科目名	観光地理学			科目コード	SC102		
英文名	Tourism Geography			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)		
担当教員	栗林 慶		教員コード	158		単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日/3時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探求する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	観光について、主に地理学の観点から取り上げる。様々な地域の事例から、地域が持つ観光資源や、観光産業によって生じる地域の変化について理解を深める。また、補論として、各回で世界遺産についても学ぶ。						
授業の狙い・到達目標	① 観光地理学の基本的な考え方を理解し、観光地域の立地や形成・発展要因、観光による地域の変化について考察できるようになる。 ② 世界遺産の基本的な概念や制度を理解し、代表的な世界遺産について、その歴史的・文化的・自然的価値を説明できる。						
授業内容のレベル・関連科目	必要となる前提知識や履修科目は設定しない。						
授業外学習(予習・復習)	講義内容から疑問点や関心を探し、自分の知っている地域にも当てはめて考えながら予習・復習をすること。 授業内課題の準備として、講義の内容はよく復習し、不明な用語は調べておくこと。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間	
使用教科書	世界遺産検定事務局(2025)『はじめて学ぶ世界遺産50 <第5版>』マイナビ出版						
参考書・その他教材	講義で使用したものについては、適宜紹介する。						
課題に対するフィードバック	提出課題については、各自の答案を評価し、次週以降に返却する。また、適宜、補足説明やコメントを付記する。						
成績評価方法	平常点(30%) 授業内課題(40%) 定期試験(30%) 平常点は、授業への参加意欲、授業への貢献、グループワークにおける周囲との共同・協調を評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	より発展的な内容を学びたい場合は、参考図書等を案内する。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	質問、連絡等はメール(kei@aikoku-u.org)にて受け付ける。 教員は必ず返信をするので、もし返信がない場合は各自、連絡方法を再確認すること。						

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション 観光地理学とは何か シラバスを読み、授業内容について確認しておく。 授業内容と進め方について、確認しておく。
2 回	学習内容 予習 復習	現代の観光産業と地域① 観光業の歴史について予習しておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。
3 回	学習内容 予習 復習	現代の観光産業と地域② 観光業にどのような特徴や役割があるかを考えておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。
4 回	学習内容 予習 復習	世界の観光地 世界にどのような著名な観光地があるか、確認しておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。
5 回	学習内容 予習 復習	日本の観光地 行ったことのある観光地を確認しておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。
6 回	学習内容 予習 復習	都市観光① 東京の観光地に関して、その成り立ちや特徴を調べておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。
7 回	学習内容 予習 復習	都市観光② 京都・大阪の観光地に関して、その成り立ちや特徴を調べておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。
8 回	学習内容 予習 復習	農村と自然の観光① 農村地域や自然に関する観光地を調べておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。
9 回	学習内容 予習 復習	農村と自然の観光② 農村地域や自然に関する観光地を調べておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。
10 回	学習内容 予習 復習	観光資源と地域 フードツーリズム、祭礼文化 観光資源にはどのような種類が存在するか、調べておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。
11 回	学習内容 予習 復習	観光資源と地域 コンテンツツーリズム サブカルチャーを用いた観光振興について、事例を調べておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。
12 回	学習内容 予習 復習	観光資源と地域 ダークツーリズム ダークツーリズムという用語についてあらかじめ調べ、どのような地域や施設が該当するか考える。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。
13 回	学習内容 予習 復習	身近な観光地 千葉県① 千葉県内の行ったことのある観光地を確認しておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。
14 回	学習内容 予習 復習	身近な観光地 千葉県② 千葉県内の行ったことのある観光地を確認しておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。
15 回	学習内容 予習 復習	講義のふりかえり 各回の資料を読み返し、授業内容を振り返っておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。

科目名	日本研究			科目コード	SC107	
英文名	Japan Studies			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)	
担当教員	栗林 慶		教員コード	158		単位数 2単位
開講期間	後期	曜日・時限	木曜日/2時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	<input type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける		<input checked="" type="radio"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	<input type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探求する		<input type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	今日の様々な社会問題へアプローチする土台として、産業活動の側面から日本の地域システムと諸地域の変貌を考える。スライドを用いた講義形式を基本とするが、受講人数によっては実施方法を調整する。					
授業の狙い・到達目標	グローバル経済の下におかれた、日本の諸産業の地域展開、大都市圏と地方圏の実情について社会経済地理の視点から理解し、自地域と他地域の比較の上で今日の地域社会問題を考察できる。					
授業内容のレベル・関連科目	必要となる前提知識や履修科目は設定しない。					
授業外学習(予習・復習)	日頃から新聞に目を通したり、ニュースをよく確認するなどして、社会と経済との関係について見識を深めておくこと。授業後には、不明な用語や概念についてよく調べて、次回の授業までに不明点を残さないようにすること。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特になし					
参考書・その他教材	講義で使用したものについては、適宜紹介する。					
課題に対するフィードバック	授業内にて随時、フィードバックを行う。					
成績評価方法	平常点(30%) 授業内課題(40%) 定期試験(30%) 平常点は、授業への参加意欲、授業への貢献、グループワークにおける周囲との共同・協調を評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	より発展的な内容を学びたい場合は、参考図書等を案内する。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問、連絡等はメール(kei@aikoku-u.org)にて受け付ける。 教員は必ず返信をするので、もし返信がない場合は各自、連絡方法を再確認すること。					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション ～社会と経済の地理的關係について～ シラバスを読み、授業内容について確認しておくこと。 授業内容と進め方について、確認しておくこと。
2 回	学習内容 予習 復習	グローバル化のなかの地域と経済 今日のグローバル経済がもたらした光と影について調べておくこと。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深めておくこと。
3 回	学習内容 予習 復習	日本の人口集積とその動向 日本の人口動態、特に東京圏に関するニュースをあらかじめ調べておくこと。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深めておくこと。
4 回	学習内容 予習 復習	農業生産の動向 日本の農業生産の歴史や今日の課題について、ニュース等を調べておくこと。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深めておくこと。
5 回	学習内容 予習 復習	工業生産の動向① 日本の工業配置の形成 日本の工業生産の歴史や今日の課題について、ニュース等を調べておくこと。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深めておくこと。
6 回	学習内容 予習 復習	工業生産の動向② 現代の日本工業 日本の工業生産の歴史や今日の課題について、ニュース等を調べておくこと。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深めておくこと。
7 回	学習内容 予習 復習	流通産業の動向 日本の流通産業の歴史や今日の課題について、ニュース等を調べておくこと。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深めておくこと。
8 回	学習内容 予習 復習	中間課題 前回までの内容を確認しておくこと。 知識が定着していなかった箇所について、重点的に復習をしておくこと。
9 回	学習内容 予習 復習	東京大都市地域① 首都東京の形成 東京の形成の歴史について調べておくこと。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深めておくこと。
10 回	学習内容 予習 復習	東京大都市地域② 首都圏計画の理想と現実 東京の都市計画について調べておくこと。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深めておくこと。
11 回	学習内容 予習 復習	東京大都市地域③ 京浜(東京)工業地帯 東京近辺に存立する工業について調べておくこと。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深めておくこと。
12 回	学習内容 予習 復習	東京大都市地域④ 現代の東京問題 東京における様々な都市問題について調べておくこと。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深めておくこと。
13 回	学習内容 予習 復習	周辺地域① 東北地方：「分工場経済」の問題と東日本大震災 東北の文化、経済について調べ、東日本大震災の被災状況について確認しておくこと。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深めておくこと。
14 回	学習内容 予習 復習	周辺地域② 四国地方：豊かな風土と過疎問題 四国の文化、経済について調べ、合わせて少子高齢化問題について調べておくこと。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深めておくこと。
15 回	学習内容 予習 復習	経済地域政策の動向と展望 日本の産業や地域経済がどのように計画されていたか、歴史的経緯について調べておくこと。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深めておくこと。

科目名	華道演習		科目コード	SC116	
英文名	Practice of Japanese Flour Arrangement		科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)	
担当教員	木原 邦子	教員コード	259	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	水曜日・2時限	授業形態	演習
学位授与方針との対応	<input type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	<input type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探究する	<input checked="" type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	いけばなの歴史と小原流の基本のかたちを指導する。500年以上の永きにわたる伝統あるいけばなの基本を修得することができる。毎時間実際に各自で花をいけて、基本の修得と美的感覚を養い、人間形成の助言としたい。				
授業の狙い・到達目標	季節の移り変わりに自然の様々な変化を感じ、感動できる感受性を育み、そうした自然との触れ合いを通じて豊かな人間形成の基礎を培うことができる。				
授業内容のレベル・関連科目	いけばなをするうえで前提となるお花の扱い方や花材の選び方を学ぶ。そして「たてるかたち」「かたむけるかたち」としたシンプルな型をいけることで、少ない花材数でも美しくいけられる技術が身に付く。なお、学ぶ知識や技術は、小原流いけばな全体の基礎となる。				
授業外学習(予習・復習)	定められた「かたち」の中で「かたちの特徴を理解し、当日の花材をどのような形にどこへ挿せばよいか基本に忠実にいける。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特になし				
参考書・その他教材	小原宏貴『小原流花型カード』一般財団法人 小原流事業部 花材代が授業1回につき400円かかる(試験日の花材代も含む)				
課題に対するフィードバック	特になし				
成績評価方法	実技試験70%、授業への貢献度30%で評価する。				
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	当日の花材と真摯に向き合い花と語ろう。花材により「いけるかたち」の順が変わる場合がある。				
科目に関連した教員の實務経験	千葉県茶華道協会主催の華道展に出品。				
担当教員への連絡方法	参考書に連絡先を記入している。				

授業スケジュール

華道演習

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション、講義の概要および学習のポイントを概説する。テストの方法も説明する。 シラバスを読んでおくこと。 授業内容を振り返ること。
2 回	学習内容 予習 復習	華道の歴史、伝統文化いけばなの歴史を講義する。実技指導も行う。 参考書を読んでおくこと。 授業内容を振り返ること。当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
3 回	学習内容 予習 復習	小原流創始、初代から5世までの歴代家元について講義する。実技指導も行う。 参考書を読んでおくこと。 当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
4 回	学習内容 予習 復習	花形全般について、講義する。「たてるかたち」の実技指導も行う。 参考書を読んでおくこと。 当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
5 回	学習内容 予習 復習	花意匠基本のいけ方について、講義する。「たてるかたち」の実技指導も行う。 参考書を読んでおくこと。 当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
6 回	学習内容 予習 復習	花意匠基本のいけ方について、講義する。「たてるかたち」の実技指導も行う。 参考書を読んでおくこと。 当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
7 回	学習内容 予習 復習	役枝について、講義する。「かたむけるかたち」の実技指導も行う。 参考書を読んでおくこと。 当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
8 回	学習内容 予習 復習	役枝について、講義する。「かたむけるかたち」の実技指導も行う。 参考書を読んでおくこと。 当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
9 回	学習内容 予習 復習	花材取合せについて、講義する。「かたむけるかたち」の実技指導も行う。 参考書を読んでおくこと。 当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
10 回	学習内容 予習 復習	花意匠の展開について、講義する。「ひらくかたち」の実技指導も行う。 参考書を読んでおくこと。 当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
11 回	学習内容 予習 復習	水揚げについて、講義する。「ひらくかたち」の実技指導も行う。 参考書を読んでおくこと。 当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
12 回	学習内容 予習 復習	花意匠の展開について、講義する。「ひらくかたち」の実技指導も行う。 参考書を読んでおくこと。 当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
13 回	学習内容 予習 復習	花意匠の展開「ならぶかたち」について、講義する。花意匠のいけ方について反復練習を行う。 参考書を読んでおくこと。実技指導も行う。 当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
14 回	学習内容 予習 復習	全体のまとめ、本演習のまとめと復習を行う。希望のかたちの実技指導も行う。 今まで学習した内容について、総復習をしてくる。 演習を踏まえ、改めて総復習をする。
15 回	学習内容 予習 復習	授業進度の調整日。希望のかたちの実技指導も行う。 実技試験に向けて、どの形でいけるか考えておくこと。 自分で花を買って、花意匠で学んだ3つのかたちをいけてみる。

科目名	茶道演習		科目コード	SC117	
英文名	Practice of Tea Ceremony		科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)	
担当教員	稲田 環菜	教員コード	266	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日・3時限	授業形態	演習
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける	○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う	○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探求する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	茶道に関する基礎知識を学び、演習を通じて実技(平点前)を習得する講義である。講義を通して豊かな人間性を養い、四季を通じた日本文化、おもてなしの作法、社会人になってからも使える教養とコミュニケーション力を身につける。ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン(DE&I)とチームビルディングに対する理解も深めることを推進する。				
授業の狙い・到達目標	世界で高い評価を得ている文化のひとつに禅の教えがあり、茶道の美意識の根底には、この禅の思想がある。受講者には本授業を通して、日本文化と茶道の教え、そこに関わる四季の美しさを理解し、日々の出来事や周囲の人への感謝の気持ちを育むことができる。				
授業内容のレベル・関連科目	初歩の茶道を通して受講生の人間性を高め、将来の人格形成に役立つ授業とする。				
授業外学習(予習・復習)	毎回授業後は簡単な感想文を提出する。次回の稽古日までに、前回までの復習と次回の予習を行う。			授業外学習に必要な時間	各回3時間、合計45時間
使用教科書	裏千家今日庵監修 「はじめての茶道」 一般社団法人 今日庵 裏千家今日庵監修 「裏千家茶道」 一般社団法人 今日庵				
参考書・その他教材	*その他の資料は都度配布する。 お菓子代が授業1回につき200円かかる(試験日のお菓子代もかかる)。 その他、実費がかかる場合がある。				
課題に対するフィードバック	提出されたレポートは、良い点や注意点などについて、若干のコメントを記入して返却をする。また授業の最後に振り返りの時間を設け、全体に対するフィードバックを行う。				
成績評価方法	平常点(40%)、実技の到達度(60%)				
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	学生には茶道を通じて自己内省を深めるとともに、他者への感謝と思いやりの気持ちを育てていただきたい。社会情勢に関心を持ち、茶道を通じておもてなしにまつわる作法と心構え、周囲と協力・協働し、よりよいチームを築いていくことの大切さを学んでいただく。				
科目に関連した教員の実務経験	裏千家茶道講師。学生時代より茶道を学び、約30年の経験を持つ。また企業人事のコンサルティング(採用・育成)に関わる豊富な実績を有し、茶道を取り入れたワークショップ・研修を通じてダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン(DE&I)の推進、グローバル人材育成に取り組む。				
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける(mail to: inada@aikoku-u.org) 件名に科目名、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。				

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション・茶道って何だろう？～講演後には茶室にて抹茶を楽しむ テキストの当該箇所を読んでおく。 当日の講義の内容を思い出し、日々の生活に活かす。
2 回	学習内容 予習 復習	「和敬静寂」の教え・千利休「四規七則」を学ぶ テキストの当該箇所を読んでおく。 当日の講義の内容を思い出し、日々の生活に活かす。
3 回	学習内容 予習 復習	茶道の型と形・お辞儀の仕方、歩き方、座り方、抹茶や菓子の頂き方を学ぶ テキストの当該箇所を読んでおく。 当日の講義の内容を思い出し、日々の生活に活かす。
4 回	学習内容 予習 復習	割稽古①・帛紗捌き、棗・茶杓の清め方、茶筌通しを学ぶ テキストの当該箇所を読んでおく。 当日の講義の内容を思い出し、日々の生活に活かす。
5 回	学習内容 予習 復習	割稽古②・茶巾のたたみ方、茶碗の清め方、柄杓の扱い方を学ぶ テキストの当該箇所を読んでおく。 当日の講義の内容を思い出し、日々の生活に活かす。
6 回	学習内容 予習 復習	水屋心得から学ぶ・始めの準備と後始末、人生には整理整頓が大切である テキストの当該箇所を読んでおく。 当日の講義の内容を思い出し、日々の生活に活かす。
7 回	学習内容 予習 復習	風炉の運び薄茶点前①・亭主の心得・役割を学ぶ テキストの当該箇所を読んでおく。 当日の講義の内容を思い出し、日々の生活に活かす。
8 回	学習内容 予習 復習	風炉の運び薄茶点前②・半東の心得・役割を学ぶ テキストの当該箇所を読んでおく。 当日の講義の内容を思い出し、日々の生活に活かす。
9 回	学習内容 予習 復習	風炉の運び薄茶点前③・客の心得・役割を学ぶ テキストの当該箇所を読んでおく。 当日の講義の内容を思い出し、日々の生活に活かす。
10 回	学習内容 予習 復習	応用道具の楽しみ方・扇子、茶入、茶杓、花入、蓋置、香合など、茶道にまつわる様々な道具を学ぶ テキストの当該箇所を読んでおく。 当日の講義の内容を思い出し、日々の生活に活かす。
11 回	学習内容 予習 復習	和服の所作・和服の着方、畳み方、ほか和服着装時の所作を学ぶ テキストの当該箇所を読んでおく。 当日の講義の内容を思い出し、日々の生活に活かす。
12 回	学習内容 予習 復習	四季の花摘み・「花寄せ」体験から日本の四季を感じる喜びを感じる テキストの当該箇所を読んでおく。 当日の講義の内容を思い出し、日々の生活に活かす。
13 回	学習内容 予習 復習	マナーは何故必要か？・人との交流、特に国際交流にはマナーが大切であることを学ぶ テキストの当該箇所を読んでおく。 当日の講義の内容を思い出し、日々の生活に活かす。
14 回	学習内容 予習 復習	稽古茶会・茶会とは皆で仲良く菓子を食べて抹茶を頂きながら楽しく過ごすこと テキストの当該箇所を読んでおく。 当日の講義の内容を思い出し、日々の生活に活かす。
15 回	学習内容 予習 復習	生徒が主催する茶会の開催・・・「学長先生を招く感謝の茶会」 テキストの当該箇所を読んでおく。 当日の講義の内容を思い出し、日々の生活に活かす。

科目名	社会心理学 I		科目コード	SC218	
英文名	Social Psychology I		科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻(必修)	
担当教員	原島 雅之	教員コード	142	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	火曜日/1時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける	<input type="radio"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	<input checked="" type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	<input type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探求する	<input type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	本教科では社会心理学の基礎について取り上げる。個としての人間がどのようにして社会性を形成するか、またどのようにして自己や社会と関わっていくのかについて、様々な研究例をもとに紹介していく。				
授業の狙い・到達目標	自己や他者の捉え方における社会的性質、他者に対する行動や集団などにまつわる様々な現象から、社会的動物としての人間のありようを理解することができる。				
授業内容のレベル・関連科目	心理学基礎(心理学概論 I)を履修した後の、やや専門的な応用レベルの授業となる。				
授業外学習(予習・復習)	配布資料について事前に目を通したり、各回のトピックについて自分で調べるなどして授業に臨むこと。復習としては、授業内容と自分の日常生活との関わりについて考え、課題の提出に備えること。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特に使用しない。毎回の授業の際に資料を配布する。				
参考書・その他教材	授業の際に適宜紹介あるいは配布を行う。				
課題に対するフィードバック	提出してもらった課題等についてのフィードバックは各回の授業において適宜行う。				
成績評価方法	定期試験(70%)、課題提出など(30%)によって総合的に評価する。				
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	主体的に学習に取り組むこと。日常生活における自分や身の回りの他者の心のはたらきに関心を持つことが求められる。				
科目に関連した教員の実務経験	特になし				
担当教員への連絡方法	harashima@aikoku-u.org				

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー社会心理学とは シラバスを読み、授業の概要等について確認しておくこと 授業の目的や内容について自分なりに整理し、その後の学習の心構えを作っておくこと
2 回	学習内容 予習 復習	人間の社会性ー社会的性質と対人関係 人間の社会的性質や対人関係の特徴について自らの経験などをもとに考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
3 回	学習内容 予習 復習	社会的認知①ー印象形成と対人認知 身の回りの様々な人について自分がどのようなイメージを持っているか考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
4 回	学習内容 予習 復習	社会的認知②ー帰属と社会的推論 うまくいったときと失敗したときの出来事を思い出し、その原因について考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
5 回	学習内容 予習 復習	態度ー認知的不協和と態度変容 自分が好き(嫌い)なもの、賛成(反対)だと考えることなどについてその理由を考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
6 回	学習内容 予習 復習	感情ー感情の要素と機能 人間の感情(怒り、悲しみ、喜びなど)がどのようなことに役立っているか考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
7 回	学習内容 予習 復習	自己①ー自己概念と自己知識 自分自身についてどのようなイメージを持っているかについて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
8 回	学習内容 予習 復習	自己②ー自尊心とアイデンティティ 自分の好きなどところや嫌いなどところなどについてその理由と合わせて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
9 回	学習内容 予習 復習	対人関係①ーコミュニケーションと対人魅力 どのような理由によって人同士が仲良くなるのか自分の経験などをふまえて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
10 回	学習内容 予習 復習	対人関係②ー援助行動と攻撃行動 困っている人を助ける理由について自分の経験などをふまえて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
11 回	学習内容 予習 復習	集団①ーグループダイナミクスと社会的ジレンマ 人が集団をつくることのメリット・デメリットについて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
12 回	学習内容 予習 復習	集団②ーリーダーシップの機能 理想の上司やリーダーにはどのような特徴や能力が求められるか考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
13 回	学習内容 予習 復習	集団③ー世論とマスメディア テレビやインターネットが人々の意見にどのような影響を与えるかについて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
14 回	学習内容 予習 復習	文化ー集団主義と個人主義 様々な国の文化の違いについて自分なりに調べておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
15 回	学習内容 予習 復習	まとめー社会における心のはたらき ここまでの学習内容を振り返り、自分なりに整理しておくこと 社会における心のはたらきとはどのようなものかについて考えること

科目名	教育心理学		科目コード	SC219	
英文名	Educational Psychology		科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻(選択)	
担当教員	中村 博子	教員コード	162	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日・1時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応	<input checked="" type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける	<input type="radio"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	<input type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
		5.学習の過程で発見した課題を探求する	<input type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	こどもたちが知識や社会性を主に身に着けていく場である学校において、発達段階に応じて主体的で深い学習活動を支える理論や実践方法を学ぶ。また、現代のこどもが抱える問題の社会的背景や、不適応を示すこどもの理解と対応などについても学ぶ。				
授業の狙い・到達目標	こどもの発達や学習および学校における諸問題への理解が深まり、対応と支援に関する基礎的な知識を身に着けることができる。また、「自らが学ぶ姿勢」や「人にものを教える工夫」のヒントを得ることができる。				
授業内容のレベル・関連科目	本学の心理学系科目をすべて履修し、卒業研究として心理学を選択すると、認定心理士(日本心理学会)の取得資格を得ることができる。				
授業外学習(予習・復習)	配布資料と授業中にとったメモを、改めてノートにまとめることを推奨する。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間
使用教科書	指定しない。毎回資料を配布する。				
参考書・その他教材	鎌原 雅彦(著)竹綱 誠一郎(著)「やさしい教育心理学 第5版」 有斐閣アルマ 市川伸一(著)「学習と教育の心理学 増補版」 岩波書店				
課題に対するフィードバック	授業で課した小レポートについては添削の上返却し、授業で全体の講評を行う。				
成績評価方法	期末試験(60%)、レポート・授業内の課題(20%)、授業への貢献度(20%)で総合的に評価する。				
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	現代の学校を取り巻く諸問題について、日常から意識をしてニュース等を収集し、自分なりの意見を整理する習慣をもつことが求められる。				
科目に関連した教員の実務経験	地方公務員として児童相談所に勤務(経験)。スクールカウンセラーとしての臨床勤務(経験)。				
担当教員への連絡方法	授業前後での質問、メールでの質問(hnakamura@aikoku-u.org)を受け付ける。 メールでの問合せは、件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。				

授業スケジュール

教育心理学

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション。現代の学校教育の課題について知る。教育心理学の紹介 学校やこどもに関するニュースを集めておく シラバスをしっかりと読み直しておく。
2 回	学習内容 予習 復習	発達段階と発達課題～遺伝か環境か、発達課題は何かについて学ぶ エリクソンの発達段階説を調べておく ポイントをノートにまとめ直す。
3 回	学習内容 予習 復習	適応とは何か。教育相談や障害について理解する 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
4 回	学習内容 予習 復習	親子関係や仲間関係などの対人関係の発達について理解する 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
5 回	学習内容 予習 復習	幼児期・児童期・青年期の心理的問題について理解する 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
6 回	学習内容 予習 復習	学習理論や記憶、動機づけについて学ぶ 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
7 回	学習内容 予習 復習	学習のまとめ これまでの学習で疑問点を整理しておく ポイントをノートにまとめ直す。
8 回	学習内容 予習 復習	学級集団の特徴や学級の対人関係、社会性について学ぶ 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
9 回	学習内容 予習 復習	パーソナリティの理解と測定について学ぶ 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。授業で与えられた課題をこなす。
10 回	学習内容 予習 復習	知能の発達、様々な知能観、測定方法、測定結果の利用について学ぶ 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
11 回	学習内容 予習 復習	不適応を示すこどもへの理解と対応について学ぶ。～不登校、いじめ、非行 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
12 回	学習内容 予習 復習	不適応を示すこどもへの理解と対応について学ぶ～発達障害の理解と対応 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
13 回	学習内容 予習 復習	スクールカウンセラーの活用の実際について知る(担当教員のSC実務経験に基づく授業) 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
14 回	学習内容 予習 復習	教育の現場の虐待問題への対応の実態と課題(担当教員の児童相談所の実務経験に基づく授業) 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
15 回	学習内容 予習 復習	まとめと復習 どのような教育者・養育者を目指すか考える これまでまとめたノートをよく見直しておく。 試験の準備をする。

科目名	性格心理学		科目コード	SC220	
英文名	Personality Psychology		科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻(選択)	
担当教員	原島 雅之	教員コード	142	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	水曜日/2時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける	<input type="radio"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	<input checked="" type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	<input type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探求する	<input type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	「性格」ということばは日常の様々な場面で用いられ、多くの人が関心を持っているが、性格がそもそもどういふものを説明することはなかなか難しい。本講義では心理学においてこれまで性格がどのように捉えられ、扱われてきたのか、その理論や方法論などを紹介していく。				
授業の狙い・到達目標	心理学における性格に関する考え方、測定の方法などを知ることを通して、自分や他者の性格についての理解を深めることができる。				
授業内容のレベル・関連科目	心理学基礎(心理学概論Ⅰ)を履修した後の、やや専門的な応用レベルの授業となる。				
授業外学習(予習・復習)	配布資料について事前に目を通したり、各回のトピックについて自分で調べるなどして授業に臨むこと。復習としては、授業内容と自分の日常生活との関わりについて考え、課題の提出に備えること。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間
使用教科書	特に使用しない。毎回の授業の際に資料を配布する。				
参考書・その他教材	鈴木公啓(編)『パーソナリティ心理学概論－性格理解への扉－』ナカニシヤ出版				
課題に対するフィードバック	提出してもらった課題等についてのフィードバックは各回の授業において適宜行う。				
成績評価方法	定期試験(70%)、課題提出など(30%)によって総合的に評価する。				
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	主体的に学習に取り組むこと。日常生活における自分や身の回りの他者の心のはたらきに関心を持つことが求められる。				
科目に関連した教員の実務経験	特になし				
担当教員への連絡方法	harashima@aikoku-u.org				

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー性格心理学とは シラバスを読み、授業の概要等について確認しておくこと 授業の目的や内容について自分なりに整理し、その後の学習の心構えを作っておくこと
2 回	学習内容 予習 復習	性格の理論①ー特性論と類型論 自分や身の周りの人の性格の特徴やタイプについて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
3 回	学習内容 予習 復習	性格の理論②ー状況論と相互作用論 様々な場面における自分の行動の特徴やパターンについて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
4 回	学習内容 予習 復習	性格の測定①ー観察と面接、作業検査 人の性格を測る際に何を「観察」すればよいか考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
5 回	学習内容 予習 復習	性格の測定②ー質問紙と信頼性・妥当性の問題 人の性格を測る際にどのような「質問」をすればよいか考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
6 回	学習内容 予習 復習	性格の遺伝ー行動遺伝学と双生児研究 性格は親から遺伝するか、それを調べるにはどうすればよいか考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
7 回	学習内容 予習 復習	性格の発達①ー青年期までの発達 生まれてから大人になるまで性格はどのように発達していくか考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
8 回	学習内容 予習 復習	性格の発達②ー成人期以降の発達 大人になってから性格は変わるかどうか、またその理由について考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
9 回	学習内容 予習 復習	性格と対人関係①ー学校や友人関係 学校や友人関係は性格にどのような影響を与えるか考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
10 回	学習内容 予習 復習	性格と対人関係②ー家族や親密な関係 家族や親密な関係(恋人など)は性格にどのような影響を与えるか考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
11 回	学習内容 予習 復習	さまざまな個人差①ー社会的認知における個人差 他者や対人関係、社会などの捉え方にはどのような個人差があるか考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
12 回	学習内容 予習 復習	さまざまな個人差②ー感情経験における個人差 感情(喜びや悲しみ、怒りなど)の経験における個人差について考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
13 回	学習内容 予習 復習	性格の病理ー正常と異常、障害と病理 性格の「異常」や「病気」とはどのような状態を表すのかについて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
14 回	学習内容 予習 復習	性格の背景ー文化と進化 文化の違いは性格にどのような影響を与えるかについて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
15 回	学習内容 予習 復習	まとめー「性格」とは何か ここまでの学習内容を振り返り、自分なりに整理しておくこと 人や自分の「性格」とはどのようなものかについて考えること

科目名	発達心理学		科目コード	SC221	
英文名	Developmental Psychology		科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻(選択)	
担当教員	中村 博子	教員コード	162	単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	木曜日・2時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応	<input type="checkbox"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける	<input checked="" type="checkbox"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	<input type="checkbox"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う	<input type="checkbox"/>	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	<input type="checkbox"/>	5.学習の過程で発見した課題を探求する	<input type="checkbox"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	人間の生涯を通じて、胎児期から老年期にわたる各時期における発達の特徴について理解を深めながら、自分と他者・社会の関係における自己の発達について考える。また、「虐待」「発達障害」等の発達にかかわる社会的課題については、実際の事例を交えながら詳しく紹介していく。				
授業の狙い・到達目標	生涯発達という考え方を理解し、乳幼児期～老年期それぞれにおける発達の特徴およびその個人差について学ぶ。自らの今後のライフプランを生涯発達の視点で考え、アウトプットすることができる。				
授業内容のレベル・関連科目	心理学基礎(心理学概論Ⅰ)を履修した後の、やや専門的な応用レベルの授業となる。				
授業外学習(予習・復習)	配布資料について事前に目を通したり、各回のトピックについて自分で調べるなどして授業に臨むこと。復習としては、授業内容と自分の日常生活との関わりについて考え、課題の提出に備えること			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特に使用しない。毎回の授業の際に資料を配布する。				
参考書・その他教材	坂上裕子・山口智子・林創・中間玲子(著)「問いからはじめる発達心理学 生涯にわたる育ちの科学」有斐閣ストゥディア 二宮克美・大野木裕明・宮沢秀次(編)「ガイドライン 生涯発達心理学」ナカニシヤ出版				
課題に対するフィードバック	授業内のディスカッションやシートを利用してフィードバックを行う。 また、最終講義でグループワークのフィードバックを行う				
成績評価方法	定期試験(60%)、課題提出(20%)、授業への取り組み姿勢(20%)によって総合的に評価する。				
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	主体的に学習に取り組むこと。日常生活における自分や身の回りの他者の心のはたらきに関心を持つことが求められる。				
科目に関連した教員の実務経験	地方公務員として児童相談所に勤務(経験)。カウンセラーとしての臨床勤務(経験)。				
担当教員への連絡方法	授業前後での質問、メールでの質問(hnakamura@aikoku-u.org)を受け付ける。 メールでの問合せは、件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。				

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー生涯発達の考え方 シラバスを読み、授業の概要等について確認しておくこと 授業の目的や内容について自分なりに整理し、その後の学習の心構えを作っておくこと
2 回	学習内容 予習 復習	発達するとはどういうことかについて学ぶ 前回の内容と自分自身のこれまでの経験を振り返りつつ「発達」について考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
3 回	学習内容 予習 復習	生命の芽生えから誕生までに何が起きているかを知る 自分の生まれる前、生まれた時の様子など可能な範囲で調べておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
4 回	学習内容 予習 復習	赤ちゃんがとらえる世界について学ぶ～見て、触って、感じる ピアジェの発達段階理論について調べておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
5 回	学習内容 予習 復習	コミュニケーションと人間関係の発達について学ぶ 乳児の写真、動画を見て、目が合った時・泣いた時・笑った時、どうしようと思うかについて考えておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
6 回	学習内容 予習 復習	言葉と遊びの発達について学ぶ 配布資料を熟読しておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
7 回	学習内容 予習 復習	これまでの講義のまとめ これまでの講義の疑問点をまとめておくこと 乳幼児期を中心に、ひとがどのように認知を身に付けていくかについて整理する
8 回	学習内容 予習 復習	関わりの中での育ちを学ぶ 自分が初めて人の気持ちを考えた時、うそをついた時、何歳ごろだったか思い出してまとめておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
9 回	学習内容 予習 復習	学校での学び、育ちを知る ピアジェの発達段階理論における15歳までの段階特徴を調べておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
10 回	学習内容 予習 復習	子どもをめぐる問題～虐待について学ぶ(担当教員の児童相談所の実務経験に基づく授業) 虐待に関するニュースを3つ集め、共通する要因について考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
11 回	学習内容 予習 復習	発達におけるつまずきをどう理解し支えるかを考える～発達障害について 発達障害の種類や特徴について調べておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
12 回	学習内容 予習 復習	青年期の発達の变化について学び、考える 友達と親友の違いは何か。子どものころはどうだったか。考えをまとめておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
13 回	学習内容 予習 復習	成人期の始まりの課題について学ぶ 自分は子ども・青年・大人のどれに属すると思うか。その理由を考えてくること 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
14 回	学習内容 予習 復習	老いるとはどういうことかを考える 高齢者になると心理的にどのような変化が起きるのかについて調べ、考えをまとめておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
15 回	学習内容 予習 復習	発達の視点を含んだ今後のライフプランについてまとめ、発表する。 講義で学んだことを踏まえて自分なりの考えをまとめておく 他者の発表を聞いてより豊かなプランを考える。試験に備える。

科目名	色彩心理学		科目コード	SC222	
英文名	Color Psychology		科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻(選択)	
担当教員	佐久間 直人	教員コード	148	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	火曜日・2時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応	<input checked="" type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける	<input type="radio"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	<input type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
		5.学習の過程で発見した課題を探求する	<input type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	色は、日常で目にする物体の最も基本的な属性の一つであり、極めて身近なものである。しかし、実際には「色とは何か」、「色が見えるとはどういうことか」は一般的には知られていない。本講義では、色の仕組み、色にまつわる心理学的な諸現象の紹介を通して、色と人間の関わりを学ぶ。				
授業の狙い・到達目標	色そのものの性質や色に見える仕組みなどについて理解することができる。 色彩学、色の知覚心理学、色彩デザインの基礎知識を習得することができる。				
授業内容のレベル・関連科目	本学の心理学系科目をすべて履修し、卒業研究として心理学を選択すると、認定心理士(日本心理学会)の取得資格を得ることができる。従って、資格に相応しいレベルは保つつもりである。また、色彩検定UC級と3級(および2級の一部)の資格取得に役立つ内容が扱われる。				
授業外学習(予習・復習)	授業の前と後に、教科書の該当箇所を読んでおく。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	公益社団法人 色彩検定協会 『色彩検定 公式テキスト 3級編 (2020年改訂版)』				
参考書・その他教材	海保博之・日比野治雄・小山慎一(編) 『朝倉実践心理学講座3 デザインと色彩の心理学』 朝倉書店				
課題に対するフィードバック	授業で課した小レポートについては添削の上返却し、授業で全体の講評を行う。				
成績評価方法	期末試験(70%)、レポート・授業内の課題(20%)、授業への貢献度(10%)で総合的に評価する。				
成績評価基準	到達目標に対して学習がどのくらい進んだかについて、本学の学業成績判定に関する規程の基準に従って評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	講義中の私語は慎むこと。許可を得ずに突然撮影することは禁止する。 カラーの資料をオンラインで提供する予定なので活用してほしい。				
科目に関連した教員の実務経験	特になし				
担当教員への連絡方法	授業の前後に教員に直接声をかけると、最も早い対応が期待できる。 質問はメールでも受け付ける。(sakuma@aikoku-u.org)				

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション:色彩心理学とは何か シラバスをしっかりと読んでおく。 色彩検定についてインターネット等で簡単に調べておく。
2 回	学習内容 予習 復習	色と人間:色と学問(心理学・光学・人間工学)の関わり 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
3 回	学習内容 予習 復習	色とは何か:色の正体と色が見える仕組み① 分光分布、分光反射率、錐体過程 教科書の第3章の前半部分について、図を中心に目を通しておく。 教科書の第3章の前半部分の該当箇所を読み直す。
4 回	学習内容 予習 復習	色とは何か:色の正体と色が見える仕組み② 錐体拮抗課程、混色 教科書の第3章の前半部分について、図を中心に目を通しておく。 教科書の第3章の前半部分の該当箇所を読み直す。
5 回	学習内容 予習 復習	色の表し方:色を定量的に表す方法(表色系の成り立ち) 教科書の第3章の後半部分について、図を中心に目を通しておく。 教科書の第3章の後半部分を読み直す。
6 回	学習内容 予習 復習	色の見え方:物理的に定義される色と、人間個人に「見えた色」の違い 色とは何か、表色系とは何かについて、説明できるようにしておく。 教科書の第5章を読み直す。色の錯視の例を日常で探してみる。
7 回	学習内容 予習 復習	ここまでのまとめ:眼球に光が入ってから色が見えるまで これまでの授業の要点を自分なりにまとめておく。 教科書の第3章を読み、内容が概ね理解できることを確認しておく。
8 回	学習内容 予習 復習	色名と色の分類:日常的な色の分類の成立と、色名の持つ効果 色の名前を思い浮かんだ順にできるだけ書いてみる。 自分が書き上げた色名やその順序と、授業内容の関係を考えてみる。
9 回	学習内容 予習 復習	色の心理的効果:網膜の錐体分布から考える「見えている景色」の不思議 色が見える仕組みについて見直しておく。 教科書の第6章について、図を中心に目を通しておく。
10 回	学習内容 予習 復習	色の心理的効果:色が他の属性に与える影響 教科書の第6章に目を通しておく。 教科書の第6章を読み直す。
11 回	学習内容 予習 復習	色とデザイン:デザインや芸術における色の配置 教科書の第9章、第12章に目を通しておく。 教科書の第9章、第12章を読み直す。
12 回	学習内容 予習 復習	色覚の多様性:等色実験と色覚検査、錐体の種類による色覚のタイプ 色が見える仕組みについて見直しておく。 錐体特性と色覚のタイプについてまとめる。
13 回	学習内容 予習 復習	色覚の多様性:遺伝的多様性・疾病等による多様性と色のユニバーサルデザイン 色とは何かと、色覚のタイプについて説明できるようにしておく。 身近なもので「UCのもの」または「UCにすべきもの」を探す。
14 回	学習内容 予習 復習	色とイメージ:感情やリラクゼーションと色のかかわり、「世間でいう色彩心理学」の問題点 インターネットで「色彩心理学」を検索し、おおまかな印象をまとめる。 心理学と疑似科学をどのように区別すればよいか考える。
15 回	学習内容 予習 復習	まとめと復習:これまでの授業のポイントを振り返る これまでの要点・重要語をよく見直しておく。 試験の準備をする。

科目名	心理学研究法 I			科目コード	SC223	
英文名	Psychological Research Methods I			科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻(選択)	
担当教員	佐久間 直人		教員コード	148	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	火曜日・3時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける	<input type="radio"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
		5.学習の過程で発見した課題を探求する	<input type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	心理学という学問の、実践的な研究方法を紹介する。代表的な研究手法、データの分析手法を紹介した「心理学研究法」というテキストに沿って授業を進めていく。心理学研究法 I ではテキストの1章から7章にある、データの取得方法までをとりあげる。					
授業の狙い・到達目標	人間の行動とその心的過程を研究する方法(主にデータの取り方)を習得することができる。					
授業内容のレベル・関連科目	心理学で卒業研究をする予定の学生は4年生になる前までに履修することが望ましい。また、この授業で学ぶ内容は、心理学実験実習 I、II で実践することができる。 逆に、心理学の卒業研究や実験実習に興味のない者にはおすすりできない専門的な内容である。					
授業外学習(予習・復習)	授業の前と後に、教科書の該当箇所を読んでおく。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間
使用教科書	大山正・岩脇三良・宮埜壽夫 『心理学研究法 データ収集・分析から論文作成まで』 サイエンス社					
参考書・その他教材	特になし					
課題に対するフィードバック	授業で課した小レポートについては添削の上返却し、授業で全体の講評を行う。					
成績評価方法	期末試験(70%)、レポート・授業内の課題(20%)、授業への貢献度(10%)で総合的に評価する。					
成績評価基準	到達目標に対して学習がどのくらい進んだかについて、本学の学業成績判定に関する規程の基準に従って評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	研究方法に関する専門的な内容を扱うため、心理学の卒業研究や実験実習に興味のない者にはおすすりしない。時間割を埋めるために登録するなどしないように注意願いたい。 私語は厳禁であるが、発言は歓迎する。講義中でも積極的に質問してほしい。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	授業の前後に教員に直接声をかけると、最も早い対応が期待できる。 質問はメールでも受け付ける。(sakuma@aikoku-u.org)					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション:心理学とは何か、なぜ研究法が必要か シラバスをしっかりと読んでおく。 資料等を読み直しておく。
2 回	学習内容 予習 復習	心理学研究法の特徴:心理学の研究対象と歴史 教科書の第1章に目を通しておく。 教科書の第1章を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
3 ・ 4 回	学習内容 予習 復習	観察法・面接法・実験法:自然観察、条件を統制した観察と面接による観察のしかた 教科書の第2章に目を通しておく。 教科書の第2章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
5 ・ 6 回	学習内容 予習 復習	質問紙法:質問紙による調査データの収集法 教科書の第3章に目を通しておく。 教科書の第3章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
7 回	学習内容 予習 復習	SD法:イメージの測定、意味空間を調べるSD法の行い方 教科書の第4章に目を通しておく。 教科書の第4章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
8 ・ 9 回	学習内容 予習 復習	反応時間測定法:反応時間の測定方法とその意義 教科書の第5章に目を通しておく。 教科書の第5章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
10 ・ 11 ・ 12 回	学習内容 予習 復習	心理検査法:質問紙法、作業検査法、投影法による個人データの測定方法 教科書の第6章に目を通しておく。 教科書の第6章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
13 ・ 14 回	学習内容 予習 復習	心理物理学的測定法:刺激(物理量)と反応(心理量)の対応を求め、感覚を測る方法 教科書の第7章に目を通しておく。 教科書の第7章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
15 回	学習内容 予習 復習	まとめと復習 これまでの要点と重要語をまとめておく。 試験の準備やレポート執筆をする。

科目名	心理学研究法Ⅱ		科目コード	SC224	
英文名	Psychological Research Methods Ⅱ		科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻(選択)	
担当教員	佐久間 直人	教員コード	148	単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	火曜日・3時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける	<input type="radio"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
		5.学習の過程で発見した課題を探求する	<input type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	心理学という学問の、実践的な研究方法を紹介する。代表的な研究手法、データの分析手法を紹介した「心理学研究法」というテキストに沿って授業を進めていく。心理学研究法Ⅱではテキストの8章から14章にある、データの分析・解析の方法および研究のまとめ方をとりあげる。				
授業の狙い・到達目標	心理学研究に用いられるデータ解析法を習得することができる。統計学の基礎を学び、「データによって科学的に示された」とは何を意味するのかを理解することができる。				
授業内容のレベル・関連科目	心理学で卒業研究をする予定の学生は4年生になる前までに履修することが望ましい。また、この授業で学ぶ内容は、心理学実験実習Ⅰ、Ⅱで実践することができる。 逆に、心理学の卒業研究や実験実習に興味のない者にはおすすりできない専門的な内容である。				
授業外学習(予習・復習)	授業の前と後に、教科書の該当箇所を読んでおく。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	大山正・岩脇三良・宮埜壽夫「心理学研究法 データ収集・分析から論文作成まで」サイエンス社				
参考書・その他教材	特になし				
課題に対するフィードバック	授業で課した小レポートについては添削の上返却し、授業で全体の講評を行う。				
成績評価方法	期末試験(70%)、レポート・授業内の課題(20%)、授業への貢献度(10%)で総合的に評価する。				
成績評価基準	到達目標に対して学習がどのくらい進んだかについて、本学の学業成績判定に関する規程の基準に従って評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	研究方法に関する専門的な内容を扱うため、心理学の卒業研究や実験実習に興味のない者にはおすすりしない。時間割を埋めるために登録するなどしないように注意願いたい。 私語は厳禁であるが、発言は歓迎する。講義中でも積極的に質問してほしい。				
科目に関連した教員の實務経験	特になし				
担当教員への連絡方法	授業の前後に教員に直接声をかけると、最も早い対応が期待できる。 質問はメールでも受け付ける。(sakuma@aikoku-u.org)				

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション:なぜ統計法が必要か、データの散らばりと代表値 シラバスをしっかりと読んでおく。 平均値、標準偏差とはそれぞれ何か、専門的に説明できるようにしておく。
2 回	学習内容 予習 復習	データ解析の基礎:平均、分散、正規分布と標本分布 教科書の第8章に目を通しておく。 教科書の第8章を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
3 回	学習内容 予習 復習	実験計画・検定① 仮説検証の論理と統計的検定のしくみ 教科書の第9章に目を通しておく。 教科書の第9章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
4 回	学習内容 予習 復習	実験計画・検定② 実験計画の作成、代表的な実験計画 教科書の第9章に目を通しておく。 教科書の第9章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
5 回	学習内容 予習 復習	実験計画・検定③ t検定の考え方と方法 教科書の第9章に目を通しておく。 教科書の第9章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
6 回	学習内容 予習 復習	実験計画・検定④ 分散分析の考え方と方法 教科書の第9章に目を通しておく。 教科書の第9章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
7 回	学習内容 予習 復習	実験計画・検定⑤ 2要因以上の分散分析の考え方と方法 教科書の第9章に目を通しておく。 教科書の第9章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
8 回	学習内容 予習 復習	相関と回帰① 相関係数と関係判断の誤り 教科書の第10章に目を通しておく。 教科書の第10章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
9 回	学習内容 予習 復習	相関と回帰② 回帰分析の考え方 教科書の第10章に目を通しておく。 教科書の第10章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
10 回	学習内容 予習 復習	因子分析① 多変量解析・次元分解とは 教科書の第11章に目を通しておく。 教科書の第11章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
11 回	学習内容 予習 復習	因子分析② 主成分分析、因子分析の考え方と意義 教科書の第11章に目を通しておく。 教科書の第11章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
12 回	学習内容 予習 復習	類似性データの分析法: 多次元尺度構成、クラスター分析 教科書の第12章に目を通しておく。 教科書の第12章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
13 回	学習内容 予習 復習	カテゴリーデータの数量化: カテゴリーデータの分析法、数量化の考え方 教科書の第13章に目を通しておく。 教科書の第13章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
14 回	学習内容 予習 復習	研究論文の書き方: 論文執筆の一般的注意、研究論文の構成・内容 教科書の第14章に目を通しておく。 教科書の第14章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
15 回	学習内容 予習 復習	まとめと復習 これまでの要点と重要語をまとめておく。 試験の準備やレポート執筆をする。

科目名	食文化論		科目コード	SC225	
英文名	Food Cultures		科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻(選択)	
担当教員	市川 遥夏	教員コード	134	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	水曜日/4時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応	<input type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける	<input checked="" type="radio"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	<input type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探求する	<input type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	日本とアジアの食文化、特に日本の食文化を位置づけたうえ米、酒、麺、茶、コーヒーなど食べ物の視点から見た各国食文化の特徴を考察する。				
授業の狙い・到達目標	アジアにおける国民の健康づくりのためにバランスを整った食生活を理解できるようになる。アジアの地域ごとの食文化の特徴および各国の食文化の形成から、日本食への影響を思考することができる。				
授業内容のレベル・関連科目	日本とアジアの各国の食文化の特徴およびその違いについて理解を深め、各国の食に関する知恵を日常生活に活かせること。人間文化演習(生活科学分野)を履修予定の学生は、この授業を学習することが望ましい。				
授業外学習(予習・復習)	毎回、授業計画や教員からの指示をよく確認し、予習に取り組む。授業後、各回の講義内容を十分に復習し、専門用語や内容について自主的に調べ、理解を深める。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教科書を使用せず、資料を配布。				
参考書・その他教材	岡田哲編『食の文化を知る事典』東京堂 石毛直道著『世界の食べ物』講談社				
課題に対するフィードバック	課題に対してその場でフィードバックを行う。 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。				
成績評価方法	発表・レポート(70%)、授業への貢献度(30%)で総合的に評価する。				
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	主体的に学習に取り組むこと。不明な点は講義終了後に担当教員に質問する。				
科目に関連した教員の実務経験	特になし				
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。(ichikawa@aikoku-u.org)				

1 回	学習内容 予習 復習	授業の目的と内容、授業の進め方などについて学ぶ。 シラバスを熟読し、授業の概要についておおむね理解しておくこと。 授業の目的・内容、授業の進め方などについて振り返り、理解を深めること。
2 回	学習内容 予習 復習	日本の伝統的食文化としての和食について学ぶ。 和食の食材について調べること。 授業プリントを用いて食文化としての和食について振り返り、理解を深めること。
3 回	学習内容 予習 復習	和食の特徴について学ぶ。 一汁三菜について調べること。 授業プリントを用いて和食の特徴について振り返り、理解を深めること。
4 回	学習内容 予習 復習	日本人の味覚と嗜好について学ぶ。 日本人が好きな主食、おかずについて調べること。 授業プリントを用いて日本の日常食事の特徴について振り返り、理解を深めること。
5 回	学習内容 予習 復習	栄養面から見た日本型食生活的特質について学ぶ。 ニュートリゲノミクスについて調べること。 授業プリントを用いて日本型食生活について振り返り、理解を深めること。
6 回	学習内容 予習 復習	京の食文化について学ぶ。 日本料理の五体系について調べること。 授業プリントを用いて京の食文化について振り返り、理解を深めること。
7 回	学習内容 予習 復習	日本の行事と食文化について学ぶ。 日本の年中行事・節句について調べること。 授業プリントを用いて日本行事食について振り返り、理解を深めること。
8 回	学習内容 予習 復習	アジア食文化、中国、韓国、モンゴルの食材、料理および栄養について学ぶ。 中国、韓国、モンゴルの食材の特徴について調べること。 授業プリントを用いて各国の料理および栄養のバランスについて振り返り、理解を深めること。
9 回	学習内容 予習 復習	アジア食文化、ベトナム、タイ、カンボジアの食材、料理および栄養について学ぶ。 ベトナム、タイ、カンボジアの食材の特徴について調べること。 授業プリントを用いて各国の料理および栄養のバランスについて振り返り、理解を深めること。
10 回	学習内容 予習 復習	アジア食文化、インド、スリランカ、ネパールの食材、料理および栄養について学ぶ。 インド、スリランカ、ネパール料理の食材の特徴について調べること。 授業プリントを用いて各国の料理および栄養のバランスについて振り返り、理解を深めること。
11 回	学習内容 予習 復習	嗜好品の文化、アジアのアルコール飲料について学ぶ。 酒の種類について調べること。 授業プリントを用いてアジアのアルコール飲料について振り返り、理解を深めること。
12 回	学習内容 予習 復習	嗜好品の文化、アジアの茶とコーヒーについて学ぶ。 自国の茶とコーヒーについて調べること。 授業プリントを用いて各国の茶およびコーヒーの特徴について振り返り、理解を深めること。
13 回	学習内容 予習 復習	微生物を利用する知恵、発酵食品の不思議について学ぶ。 発酵食品の種類について調べること。 授業プリントを用いて発酵食品の機能について振り返り、理解を深めること。
14 回	学習内容 予習 復習	微生物を利用する知恵、アジアの発酵食品について学ぶ。 自国の発酵食品について調べること。 授業プリントを用いてアジアの発酵食品の特徴について振り返り、理解を深めること。
15 回	学習内容 予習 復習	課題発表、これまでの内容を振り返る。 今までの授業内容について見直し、復習をしてくること。 授業内容について理解を深めること。

科目名	介護・児童福祉論		科目コード	SC227	
英文名	Care and Child Welfare		科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻(選択)	
担当教員	鈴木 智子	教員コード	164	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	月曜日・1時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応	<input type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける	<input type="radio"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	<input type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	<input checked="" type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探求する	<input type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	この授業では、前半に、高齢者や障がい者が、その人らしい人生を過ごすための介護について、後半では、子ども(児童)の権利や、児童と家庭の福祉について学ぶ。高齢者、障がい者、子どもを巡る社会問題を確認し、様々な制度、地域との連携も含め多角的に考える。				
授業の狙い・到達目標	到達目標①:高齢者・障がい(児)者・児童に関する現状や課題について説明ができる。 到達目標②:介護福祉・児童福祉の理念やサービスについて、説明ができる。 到達目標③:対象者の生活の質(QOL)を高める援助の事例について、説明ができる。				
授業内容のレベル・関連科目	介護・児童福祉は、自分や家族、友人や地域の人々が生活していくうえで、身近な問題である。ふだんの生活を通じて、福祉に関心を持ち、自分の意見をまとめておくことが大事である。				
授業外学習(予習・復習)	事前学習:住んでいる自治体のホームページ、市区町村の広報などを読み、介護福祉・障がい福祉・児童福祉の情報を得る。ニュースに関心を持ち、専門用語(キーワード)を調べる。 事後学習:授業で学んだことを復習して、次回の授業に備える。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	毎回、資料を配布する。				
参考書・その他教材	川村匡由 編著『介護福祉論:その理論から技術、実践まで(シリーズ21世紀の社会福祉8)』ミネルヴァ書房/介護福祉教育研究会編著『新版 楽しく学ぶ介護過程』久美株式会社/浅井春夫編著『シードブック子ども家庭福祉(第3版)』建帛社				
課題に対するフィードバック	提出されたレポートは、良い点や注意点などについて、コメントを記入して返却をする。最終時に振り返りの時間を設け、全体に対するフィードバックを行う。				
成績評価方法	定期試験(40%)、レポート・課題(30%)、授業中の発言・意見・発表内容(30%)から総合的に評価する。				
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	グループワークを実施するため、事前学習をして自分の意見を述べるようにする。一部で体験型の授業を行う。				
科目に関連した教員の実務経験	○県・市町での児童福祉事務・市での障害福祉課管理職業務(経験) ○児童相談所・保健福祉総合相談・家庭児童相談室・地域包括支援センターでソーシャルワーカーとしての実践(経験) 特に実務経験で得た知識に基づく授業内容は★印を付して下線を引いている。				
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける(mail to:suzukit@aikoku-u.org) 件名に科目名、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。				

授業スケジュール

介護・児童福祉論

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション・「介護福祉」「児童福祉」とは何かを事例を通じてイメージする。 シラバスを熟読し、授業の概要についておおむね理解しておく。 授業の目的・内容、授業の進め方などについて振り返り、理解を深める。
2 回	学習内容 予習 復習	介護を必要とする人とは・日常生活自立度・認知症の基準 介護とは何か、介護が必要な人とはどのような人かを考えておく。 授業内容について振り返り、要点をまとめておく。
3 回	学習内容 予習 復習	高齢者の暮らしや思いを知るシートの記入体験・自己決定、自立支援、ノーマライゼーションの理念 自分の1日の過ごし方を振り返りながら、介護の必要な高齢者の暮らしを考えてみる。 シートを完成させる。授業内容について振り返り、要点をまとめておく。
4 回	学習内容 予習 復習	★ <u>介護保険制度・在宅や施設のサービスの内容や費用・サービスの担い手</u> 住んでいる市区町村のホームページなどから、介護保険について調べておく。 授業内容について振り返り、要点をまとめておく。
5 回	学習内容 予習 復習	★ <u>「2025年問題」と地域包括ケアシステム</u> 高齢者分野での「2025年問題」とは何かを調べておく。 授業内容について振り返り、要点をまとめておく。
6 回	学習内容 予習 復習	★ <u>障がい者の現状や課題</u> 障がいの種類にはどのようなものがあるか、どのような課題があるのかを調べておく。 授業内容について振り返り、要点をまとめておく。
7 回	学習内容 予習 復習	★ <u>障がい者総合支援法に基づく制度・サービスの内容や費用</u> 障がいのある人が抱える問題と障がい者の自立支援について調べておく。 授業内容について振り返り、要点をまとめておく。
8 回	学習内容 予習 復習	高齢者・障がい者の困りごとや介護技法の基本(体験) 高齢になると、身体のどんな機能が低下していくのかを調べておく。 介護福祉や体験型学習で学んだ感想について、レポートと共に提出をすること。
9 回	学習内容 予習 復習	児童(子ども)や家庭をめぐる現状・課題① <u>家族の多様化(ひとり親等)・子どもの貧困</u> 新聞記事やニュースなどで話題となっている、子どもや家庭をめぐる問題について調べる。 授業内容について振り返り、要点をまとめておく。
10 回	学習内容 予習 復習	★ <u>児童(子ども)や家庭をめぐる現状・課題②児童虐待・家庭内でのDV</u> 新聞記事やニュースなどで話題となっている、子どもや家庭をめぐる問題について調べる。 授業内容について振り返り、要点をまとめておく。
11 回	学習内容 予習 復習	日本や世界の児童福祉の現状・子どもの権利 子どもの権利条約について調べてみる。 授業内容について振り返り、要点をまとめておく。
12 回	学習内容 予習 復習	★ <u>児童(子ども)や家庭を支援するためのサービス(各種手当・認定こども園・こども家庭センター)</u> 住んでいる市区町村のホームページなどから、児童のためのサービスについて調べておく。 授業内容について振り返り、要点をまとめておく。
13 回	学習内容 予習 復習	★ <u>児童(子ども)や家庭を支援するための機関や施設等(児童相談所・児童養護施設・里親)</u> 「社会的養護」という言葉の意味と支援の内容を調べておく。 授業内容について振り返り、要点をまとめておく。
14 回	学習内容 予習 復習	介護福祉や児童福祉を支える仕事と職種間連携、地域との結びつき(体験談) 社会福祉関連の職種について調べておく。 授業内容について振り返り、要点をまとめておく。
15 回	学習内容 予習 復習	授業の振り返り 高齢者、障がい(児)者、子どもなど支援が必要な人に今後どのように関わっていくか考えてくること。 全15回の授業を振り返り、関心のある問題についての諸課題をとりまとめてレポートを提出すること。

科目名	障がい者コミュニケーション			科目コード	SC226	
英文名	Communication for people with disabilities			科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻(選択)	
担当教員	小川 雅夫		教員コード	257	単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	月曜日・3時限		授業形態	講義・演習
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける	○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探求する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	先天性、後天性も含め誰しものが関係しうる「障害」に対し、その状況に陥った人どのようにコミュニケーションを行っていくべきかを、視覚・聴覚障害者のコミュニケーション手段の理解を通して探る。手話、指文字、点字、白杖使用の理解のための演習を行う。					
授業の狙い・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語獲得を前提とした様々なコミュニケーション手段があることを知る。 ・母語(生まれてすぐに身につけた言語)としての手話等のコミュニケーションを知る。 ・個々の言語獲得が様々な障害種、人種を越えた文化の理解に繋がっていることを知る。 ・手話、点字、白杖等を実際に使うことを通し、日常生活における障害者への理解を深める。 					
授業内容のレベル・関連科目	手話、点字等のコミュニケーション手段を知ること「障害」についての考えを深める。言語学と関連のある内容を含む。また演習として手話を使った会話などを行い、手話表現の合理性、便利性、さらにはその限界を知る。関連科目としては日本語学概論ⅠⅡ、比較文化論Ⅱがあげられる。					
授業外学習(予習・復習)	授業内に課題を提示し、授業後半に課題をこなすことで復習、確認とする。また合わせて次回に取り上げる内容で、調べておくべき事柄を伝える。課題については次回の初めに解答と確認を行う。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間	
使用教科書	各回の内容について当日に印刷物として配布する。					
参考書・その他教材	視覚・聴覚障害者の教育支援 小川雅夫・松崎美保子・井口次郎共著(淑徳大学) 聴覚障害者の心理 中野善達・吉野公喜共著(田研出版)					
課題に対するフィードバック	授業内に課題を提示し、授業後半に課題をこなすことで復習、確認とする。次回の初めに前回の課題を取り上げ、解答と確認を行う。最終授業で全体のまとめを行う。					
成績評価方法	提出課題(40%)、毎回の課題(30%)、発言・意見・演習(30%)から総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	障害者への理解に関心を深めるとともに、主体的なコミュニケーション活動を通じて、障害者の社会参加に寄与する。					
科目に関連した教員の実務経験	県立聾学校教員として勤務していたほか、県総合教育センターで聴覚障害者と対応する業務に携わる。大学非常勤講師で聴覚障害者の心理および教育論を担当。 公立施設(県立、市立)において言語聴覚士として聴覚障害相談および障害判定業務を担当。					
担当教員への連絡方法	個人メールで対応する					

1 回	学習内容 予習 復習	知らない言葉による説明でも「状況」が理解できることに、「母語」の獲得が関連することを理解する。 字幕のない外国映画や音声のないアニメーションを見て理解できるかを経験する。 状況理解に言語がか関わっていることを確認する。
2 回	学習内容 予習 復習	様々なコミュニケーション手段を紹介する。併せて簡単な使い方を知る。 手話や点字の特徴、使い方を学習しておく。 指文字を練習する。簡単な「手話」で会話ができるようにする。
3 回	学習内容 予習 復習	聴覚障害教育の歴史とコミュニケーション手段について知る。 過去、あるいは戦時、貧困状況で障害者が社会でどのような状況に陥っていたかを考える。 障害者の社会における厳しい時代があったこと、現在もあることを理解する。
4 回	学習内容 予習 復習	聾者の手話言語と聴者の会話言語の根本的な違いを知る。 様々なサイン言語、暗号、隠語について調べておく。 日本語と日本手話の違いを確認する。
5 回	学習内容 予習 復習	会話言語(一次言語)と書記言語(二次言語)の違い、書記言語獲得の必要性について考える。 聞いて理解することと書かれているものを理解することの違いを考える。 多くの学問が文化・歴史教育であること、記述は書記言語で記されていることを理解する。
6 回	学習内容 予習 復習	二次言語獲得の時期について自分の経験を振り返って考える。 本を読んで夢中になったのはいつ頃だったのかを各自思い出し、そのときの状況を考える。 一次言語理解から二次言語理解に至る状況を理解する。
7 回	学習内容 予習 復習	手話も言語であるが、状況をすべて伝えることができる万能ではなことを理解する。 手話の歴史を学習しておく。 日本手話と日本語手話の違いを理解する。
8 回	学習内容 予習 復習	日本語言語が状況依存(コンテキスト)の高い言語であることを知る。 状況を説明するために、直接的に言う以外に、別の表現を使って説明する状況を考える。 手話が直接的な表現をする言語であることを理解する。
9 回	学習内容 予習 復習	同じ聴覚障害でも、聞こえ方が個々により大きく異なることをオーディオグラムを通して知る。 聞こえの程度がどのようなものかを調べておく。 障害の程度の違いが、本人の獲得する言語および発声に大きく関係があることを理解する。
10 回	学習内容 予習 復習	人工内耳を選択する状況、人工内耳の現状を理解する。 人工内耳の仕組みについて調べておく。 人工内耳の手術が、本人の第一言語として音声言語を選ぶことにつながることを理解する。
11 回	学習内容 予習 復習	点字、白杖が視覚障害者のコミュニケーション活動に必要であることを理解する。 白杖が法律でどのような扱いとされているのかを調べる。 視覚障害者の生活を点字と白杖の利用から考えてみる。
12 回	学習内容 予習 復習	点字や点字ブロックが身の回りに存在し、意味を示している事を実際に街を歩いて知る。 街に存在する視覚障害者の移動を妨げるもの、安全を脅かすものを調べておく。 点字や点字ブロックを日常の中で意識してみる。
13 回	学習内容 予習 復習	視覚障害者への手引きの仕方を理解し、実際に行い確認する。 視覚障害者が移動するにあたり困ることを調べておく。 視覚障害者が歩きやすい環境を意識して、街の様子を確認する。
14 回	学習内容 予習 復習	点字の仕組みについてについて知り、実際に点字を点字版で打って理解を深める。 身の回りにある点字を見つける。 身の回りに記載されている点字を読み、どのように記載されているかを知る。
15 回	学習内容 予習 復習	視覚聴覚ダブル障害の人、コミュニケーションが難しい人への対応について理解する。 手話、点字、白杖、文字盤を使うことが必要とする人を想像し、自分として何をすべきかを考える。 障害者とともに生活するより良い日本社会の創造に寄与する。

科目名	公共政策学			科目コード	SC331	
英文名	Study of Public Policy and Social Governance			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(必修)	
担当教員	岡庭 義行		教員コード	159	単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	金曜日・3時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける			2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	公共政策とは、社会で解決すべきと認識された諸問題に対して、具体的な方向性と手続きを浮揚させながら、その解決に向けて取り組むものである。本講では、公共政策・公共政策学の歴史と理論を概観するとともに、具体的な公共政策について事例解説を試みるものである。					
授業の狙い・到達目標	[到達目標①] 公共政策のその歴史と成立の背景について自らの言葉で説明することができる。 [到達目標②] 公共政策の構造と特徴について講義で解説した用語により説明することができる。 [到達目標③] 身近な公共的課題を探り、その背景と解決に向けて科学的に思考できる。					
授業内容のレベル・関連科目	私たちの社会生活に存在する公共政策について関心を払うとともに、その問題群が「社会で解決すべき」と認識された背景や事象などについて探究する姿勢が期待される。家族・ジェンダー、環境、教育、就労、貧困、医療福祉、地域経済などの関連領域と併せて学ぶことが望ましい。					
授業外学習(予習・復習)	[事前学習] 新聞やニュースなどを活用して自身の社会生活における将来の公共政策の課題の発見・発掘に努める。 [事後学習] 各テーマで学んだことを振り返り、自己の生活における具体的な政策課題と重ね合わせながら、その解決策を構想する。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特になし					
参考書・その他教材	<ul style="list-style-type: none"> ・秋吉貴雄他『公共政策学の基礎(第3版)』有斐閣(2020) ・秋吉貴雄『入門 公共政策学』中央公論新社(2021) ・笠原英彦他『公共政策の歴史と理論』ミネルヴァ書房(2013) 					
課題に対するフィードバック	小課題・リアクションペーパーはコメントをつけて返却し、適宜、関連資料を付して解説する。					
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題レポート[到達目標①②③](50%) ・小課題・リアクション・ペーパー[到達目標②③](40%) ・講義への参加状況(10%) 					
成績評価基準	授業の狙いにあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	公共政策が解決に取り組む政策課題の多くは複雑で、立場や考え方の違いにより適切に問題と認識されなかったり(主観性)、他の問題と相反する関係となることがあります(相反性)。これらの課題を客観的に見つけていく姿勢が学びのスタートラインにあることを理解しておこう。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	メールでの質問(okaniwa@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション ―公共政策とは何か― シラバスを精読し講義の概要と方法について確認し、社会生活における諸課題について調べる。 講義の目的や内容について確認し、以降の講義の目標と展望を深める。
2 回	学習内容 予習 復習	公共政策の誕生と基本構造 政策科学の歴史を概観し、公共政策の誕生とその基本構造について調べておく。 公共政策の歴史とその成立背景を振り返り、その基本構造について理解を深める。
3 回	学習内容 予習 復習	公共政策学の成立 科学としての公共政策学の成立背景やその分析的枠組み(理論, 方法, 事例等)について調べる。 政策科学から公共政策学への移行と背景を振り返り、科学としての公共政策学の理解を深める。
4 回	学習内容 予習 復習	公共政策における2つの知識体系 公共政策に活用される知識と公共政策を分析する知識の違いについて調べる。 「in の知識」と「out の知識」をそれぞれ振り返り、公共政策の知識体系について理解を深める。
5 回	学習内容 予習 復習	「問題」の発見とフレーミング, 構造分析 公共政策の対象となる問題が発見される過程と、これらの問題群の分析方法等について調べる。 社会における問題発見の背景と事例を振り返り、問題設定のプロセスについて理解を深める。
6 回	学習内容 予習 復習	公共政策の手段と設計, 社会調査 公共政策を設計するための社会調査の技法や法整備を含めた問題解決手段について調べる。 具体的な社会調査や設計事例を振り返り、公共政策の手段と設計に関する理解を深める。
7 回	学習内容 予習 復習	公共政策における合理的意思決定とアクター理論 公共政策の意思決定の過程とそれらに関わるアクター間の連携と調整について調べる。 公共政策における合理的意思決定とアクター理論について振り返り、体系的な理解を深める。
8 回	学習内容 予習 復習	利益調整と規範的判断 公共政策を設計・決定する過程で生じることのある利益調整と規範的判断について調べる。 公共政策の意思決定過程で生じる利益調整と規範的判断について振り返り、知識を整理する。
9 回	学習内容 予習 復習	公共政策の実施と知識の多元性 公共政策の実施の導線デザインや「現場地(実践知)」を含む知識の多元性について調べる。 公共政策の実施と知識の多元性について調べたことや講義内容を復習し、理解を深める。
10 回	学習内容 予習 復習	公共政策の評価と改善 今後の改善のための公共政策評価の種類と体系について調べる。 公共政策の評価手法と改善過程, それに伴う情報の透明化, 政策への理解等の要点を捉える。
11 回	学習内容 予習 復習	事例研究①「男女共同参画」 日本の「男女共同参画社会基本法」と「女性活躍推進法」について事前に通読しておくこと。 男女平等, 女性活躍, 多様な性の尊重について振り返り, その実現と課題に関して理解を深める。
12 回	学習内容 予習 復習	事例研究②「文化芸術振興」 あらかじめ配布する日本の文化芸術振興に関する資料(文化庁文書)を通読しておくこと。 事例解説を振り返り, 日本の文化芸術振興に関する計画・法令や施策に関して理解を深める。
13 回	学習内容 予習 復習	事例研究③「環境保護」 自然環境の保全や野生動植物・天然記念物の保護等の事例について事前に調べておくこと。 事例解説を振り返り, 自然環境を保護保全するための公共政策について理解を深める。
14 回	学習内容 予習 復習	事例研究④「教育振興とSociety 5.0」 日本の「教育振興基本計画」と「生涯学習振興法」について事前に通読しておくこと。 事例解説を振り返り, 日本の教育振興に資する法令や施策に関して理解を深める。
15 回	学習内容 予習 復習	まとめ・総括 ―公共政策の時代― これまでの講義を振り返り, 可能な限り近接する講義や日常の問題意識に結びつけること。 学習内容を各自の学問的関心や社会生活上の課題に接続させ今後の学びを発展させていくこと。

科目名	福祉政策学		科目コード	SC329	
英文名	Welfare Policy Studies		科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)	
担当教員	太田和 良幸	教員コード	154	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日・4時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応	<input type="checkbox"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける	<input type="checkbox"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	<input type="checkbox"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う	<input type="checkbox"/>	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	<input type="checkbox"/>	5.学習の過程で発見した課題を探求する	<input type="checkbox"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	健康・医療、子ども・子育て、福祉・介護、年金、労働者保護などの福祉行政領域における行政の役割とその実際について、具体的事例に即して学ぶ。				
授業の狙い・到達目標	福祉政策(行政)の各領域ごとに、それぞれの特徴について理解を深めるとともに、当該領域での課題を明らかにする。 福祉の観点から社会制度を理解するとともに、生涯にわたり必要に応じ自ら行動できるようになる。				
授業内容のレベル・関連科目	必要とする先修科目はないが、高等学校の社会科などの知識が必要であり、これらが基礎となる。 関連する科目としては、「社会福祉論」、「児童福祉論」などがある。				
授業外学習(予習・復習)	毎回、授業計画や教員からの指示をよく確認して予習に取り組み、レポートにまとめ、授業に持参すること また、毎回授業内容について振り返り(復習し)、これをレポートにまとめ、次回の授業時に提出すること			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教科書は使用しない。教員作成のレジユメなどを配布する。				
参考書・その他教材	講義内で適宜紹介する。				
課題に対するフィードバック	提出されたレポートは、採点して返却する。 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。				
成績評価方法	定期試験(40%)、レポート(30%)、授業への貢献度(30%)で総合的に評価する。				
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	授業は、学生の主体的学習(学生間の議論・発表)を重視し、協働で学習を深める。 主体的に学習に取り組むこと。 日頃から社会の諸事情に関心を持つことが求められる。				
科目に関連した教員の実務経験	国家公務員(内閣府、文部科学省、外務省に勤務) 特に国家公務員としての実務経験に基づく授業内容となる授業スケジュール回(学習内容欄)には、★印を付して下線を引いてある。				
担当教員への連絡方法	質問はE-Mailでも受け付ける。(mail to: ohtawa@aikoku-u.org) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること				

1 回	学習内容 予習 復習	【イントロダクション】 授業の目的と内容、授業の進め方などについて学ぶ。 シラバスを熟読して、本授業の概要、授業方法などを理解しておくこと 授業の概要、授業方法などについて振り返りを行うこと
2 回	学習内容 予習 復習	【福祉行政とは】 福祉行政とはどのような行政なのかについて学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
3 回	学習内容 予習 復習	【医療保険制度】 病気になった時に必要な医療保険制度について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
4 回	学習内容 予習 復習	【障害者福祉制度】 障害者を支援する制度について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
5 回	学習内容 予習 復習	【高齢者福祉・介護制度】 高齢者の福祉・介護制度、生き甲斐作りなどについて学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
6 回	学習内容 予習 復習	【生活保護制度】 生活に困っている人々への支援制度などについて学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
7 回	学習内容 予習 復習	【貧困対策制度】 貧困対策、子どもの貧困対策などについて学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
8 回	学習内容 予習 復習	【外国人に対する福祉施策】 外国人との共生施策、就労施策などについて学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
9 回	学習内容 予習 復習	【健康管理施策】 受動喫煙対策など健康で衛生的な生活を確保するための施策について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
10 回	学習内容 予習 復習	【年金制度】 国民年金制度、厚生年金制度など年金制度について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
11 回	学習内容 予習 復習	★【子ども・子育て支援制度】 保育所の整備、児童手当など子ども・子育て支援の制度について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
12 回	学習内容 予習 復習	★【嫌がらせ対策】 いじめ、虐待、ハラスメント、ストーカーなどの対策について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
13 回	学習内容 予習 復習	★【子どもの健全育成施策】 自殺・引きこもり対策、有害環境対策などについて学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
14 回	学習内容 予習 復習	【労働者保護制度】 非正規労働対策、最低賃金対策、雇用機会均等施策などについて学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
15 回	学習内容 予習 復習	【まとめ】 福祉行政の今日的課題について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 全15回の授業を振り返り、福祉行政の今日的諸課題についてとりまとめること

科目名	農業経済学		科目コード	SC337	
英文名	Agricultural Economics		科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(必修)	
担当教員	中村 壘	教員コード	138	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	火曜日・3時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応	<input type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	<input checked="" type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	<input type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探求する	<input type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	現代における農業・農村・食料の問題について講義する。わたしたちが生きる「グローバル社会」において、毎日の食事は日本の農業だけではなく、世界の食料事情や農産物貿易とも深い関わりを持っている。わたしたちが置かれている社会的環境を、食と農から学んでいく。				
授業の狙い・到達目標	農業・農村・食料についてバランスのとれた知識を身につけ、自分なりの意見や問題の解決策を持つようになる。				
授業内容のレベル・関連科目	大学生の学修としては基本レベルである。 関連科目：経済学概論				
授業外学習(予習・復習)	教科書に沿って授業を進める。したがって予習として指定箇所を事前に読み、復習として授業後に再度読むこと。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間
使用教科書	生源寺眞一(2018)『新版 農業がわかると、社会のしくみが見えてくる』家の光協会				
参考書・その他教材	明治大学農学部食料環境政策学科編(2011)『食料環境政策学を学ぶ』日本経済評論社 授業の回によってはレジュメ等を配布することがある。				
課題に対するフィードバック	授業の中でコメントをする。				
成績評価方法	定期試験(70%)、リアクションペーパー(30%)				
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	疑問点や不明点をそのままにせず、担当教員に必ず質問すること。				
科目に関連した教員の実務経験	特になし				
担当教員への連絡方法	メールアドレス:nakamura@aikoku-u.org 研究室:2号館2階研究室7				

授業スケジュール

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(授業の概要や目標などを確認する) シラバスをよく読んでおくこと 授業中に教員が話したことを振り返ること
2 回	学習内容 予習 復習	人類の基礎的な食料 教科書の1限目(第1章)を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
3 回	学習内容 予習 復習	所得水準の向上と穀物 教科書の1限目(第1章)を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
4 回	学習内容 予習 復習	世界の栄養不足人口 教科書の2限目(第2章)を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
5 回	学習内容 予習 復習	途上国農業の特徴 教科書の2限目(第2章)を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
6 回	学習内容 予習 復習	先進国の農業保護政策 教科書の2限目(第2章)を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
7 回	学習内容 予習 復習	食料自給率低下の原因 教科書の3限目(第3章)を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
8 回	学習内容 予習 復習	食料安全保障 教科書の3限目(第3章)を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
9 回	学習内容 予習 復習	集約型農業の特徴 教科書の4限目(第4章)を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
10 回	学習内容 予習 復習	土地利用型農業の課題 教科書の4限目(第4章)を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
11 回	学習内容 予習 復習	農業の多面的機能 教科書の5限目(第5章)を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
12 回	学習内容 予習 復習	農村コミュニティの共同力 教科書の5限目(第5章)を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
13 回	学習内容 予習 復習	豊かな食生活 教科書の5限目(第5章)を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
14 回	学習内容 予習 復習	農業・農村との接点 教科書の5限目(第5章)を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
15 回	学習内容 予習 復習	定期試験に向けて これまでの授業で学んだことを振り返ること 教員の指示に従って、定期試験対策をすること

科目名	地方自治論		科目コード	SC334	
英文名	Study of Local Government		科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)	
担当教員	岡庭 義行	教員コード	159	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	金曜日・2時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う	○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	かつて英国のジェームズ・ブライズは「地方自治は民主主義の学校である」と述べた。その後、社会の進展とともに、地方自治はその姿を大きく変貌させてきた。本講では、地方自治の歴史や事例の解説を通して、自治体の主体として私たちが担うべき役割と責任について考察する。				
授業の狙い・到達目標	[到達目標①] 地方自治の歴史について講義で解説した用語を用いて説明することができる。 [到達目標②] 公共サービスや総合計画など自治体の業務について説明することができる。 [到達目標③] 地域住民が分担すべき領域とその責任・課題等について説明することができる。				
授業内容のレベル・関連科目	地方自治では、その地域で暮らす住民すべてが「主人公」である。日常生活で感じる疑問や気づきを大切にして、私たちを取り巻く制度やシステムに関心を持つことが期待される。公共政策、法制度、まちづくり、生涯学習、観光、福祉などの関連領域を併せて学習することが望まれる。				
授業外学習(予習・復習)	[事前学習] 自身が居住する自治体について理解を深め、地方自治に関する自己の社会経験等を記録していくことが望ましい。 [事後学習] 講義で解説したテーマを具体的な自治体の活動や計画・施策に接続させること。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特になし				
参考書・その他教材	<ul style="list-style-type: none"> ・大森彌・大杉覚『これからの地方自治の教科書(改訂版)』第一法規出版(2021) ・北村亘他『地方自治論 -2つの自律性のはざままで-』有斐閣(2020) ・福島康仁編『地方自治論(第2版)』弘文堂(2018) 				
課題に対するフィードバック	小課題・リアクションペーパーはコメントをつけて返却し、適宜、関連資料を付して解説する。				
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題レポート[到達目標①②③](50%) ・小課題・リアクション・ペーパー[到達目標②③](40%) ・講義への参加状況(10%) 				
成績評価基準	授業の狙いにあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	地方自治とは、自治体の制度やシステムだけでなく、住民自身による意思決定の過程とその問題群を包含しています。地方自治の当事者としての自覚をもって主体的に学ぶことが期待されます。				
科目に関連した教員の実務経験	特になし				
担当教員への連絡方法	メールでの質問(okaniwa@aikoku-u.org), またはオフィスアワー(新年度に掲示)。もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。				

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション –地方自治とは何か– シラバスを精読し講義の概要と方法について確認し、自身の居住する自治体について調べる。 講義の目的や内容について確認し、以降の講義の目標と展望を深める。
2 回	学習内容 予習 復習	日本における地方自治の歴史 明治期以降の日本の地方自治制度の歴史と社会変化に伴う現代的課題の誕生について調べる。 講義を振り返り、自身の居住する自治体の歴史と成り立ちについて理解を深める。
3 回	学習内容 予習 復習	「国」と地方自治 戦後憲法で保障された日本の地方自治の特徴を学び、国家と地方自治の関係性を調べる。 講義を振り返り、国家と地方自治の関係の歴史とその課題について理解を深める。
4 回	学習内容 予習 復習	自治体のしくみ 身近な自治体の執行機関の種類や役割、財政と税制度の課題等について調べる。 講義内容を自身の居住する自治体の機構と活動に接続させながら、さらなる理解を深める。
5 回	学習内容 予習 復習	地方自治の計画 身近な自治体の多様な計画と施策について学び、先進的な政策事例について調べる。 講義内容を自身の居住する自治体の計画と実施に接続させながら、さらなる理解を深める。
6 回	学習内容 予習 復習	地方議会と選挙制度 地方自治における二元代表制、首長のリーダーシップ、議会の役割、選挙制度等について調べる。 地方議会と選挙制度に関して、地方自治における役割、被選挙権等の選挙制度等を説明できる。
7 回	学習内容 予習 復習	コミュニティの自治と住民参加 地方自治法に定められた住民直接請求権や住民参加の事例について事前に調べておく。 まちづくりに地域住民が積極的に参加できるようになった歴史的背景について理解を深める。
8 回	学習内容 予習 復習	拡張する公共サービスと「自助・共助・公助」の課題 拡張する公共サービスや地方の政策課題を誰がどのように支えるべきか自らの考えをまとめておく。 公共サービスが円滑に機能するための「自助・共助・公助」の連携について説明できる。
9 回	学習内容 予習 復習	「新しい公共」と地方自治の協働 「新しい公共」にはどのような種類と活動があるのか事前に調べておくこと。 「新しい公共」と地方自治の協働の事例を振り返り、「自助・共助・公助」の観点からも復習する。
10 回	学習内容 予習 復習	事例研究① 「平成の大合併」 「平成の大合併」の背景と特徴とともに、合併を選択しなかった自治体の住民自治について調べる。 地方自治における合併の意味や効果の概略、合併を選択しなかった自治体の事例を説明できる。
11 回	学習内容 予習 復習	事例研究② 身近な役場の組織と業務 自身が居住する自治体(区市町村等)の役所・役場の機構とその業務・役割について調べる。 役所・役場の機構と業務・役割について、これからの住民ニーズとの調和という観点からも振り返る。
12 回	学習内容 予習 復習	事例研究③ さまざまな公共サービス 上下水道、ごみ、道路、年金・介護、警察と消防など自治体が担う公共サービスについて調べる。 公共サービスとその財源について振り返り、公共サービスをまちづくりの基盤として捉えて理解する。
13 回	学習内容 予習 復習	事例研究④ 総合計画と総合戦略 自身が居住する自治体(区市町村等)で策定されている総合計画等について調べておく。 自治体の総合計画と総合戦略の変遷や現在の内容について振り返り、理解を深める。
14 回	学習内容 予習 復習	事例研究⑤ 防災と安心安全のまちづくり 私たちがこれまで経験してきた災害と自治体が果たしてきた役割について調べておく。 災害時における自治体の役割、防災計画の策定、情報提供等の役割について振り返る。
15 回	学習内容 予習 復習	まとめ・総括 –「地方」から学ぶ– これまでの講義を振り返り、可能な限り近接する講義や日常の問題意識に結びつけること。 学習内容を各自の学問的関心や社会生活上の課題に接続させ今後の学びを発展させていくこと。

科目名	地域資源論		科目コード	SC335	
英文名	Study of Local Resources and Management		科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)	
担当教員	岡庭 義行	教員コード	159	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	金曜日・3時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う	○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探求する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	人口減少社会の時代において「地域資源」は多様でその役割も大きくなりつつある。本講は、さまざまな領域における地域資源の事例を解説しながら、地域資源の管理と活用について理解を深めるものである。				
授業の狙い・到達目標	[到達目標①] 地域資源の管理と活用に関して講義で解説した用語により説明することができる。 [到達目標②] 地域社会に潜在する資源化可能な事象を発掘し説明することができる。 [到達目標③] 地域活性化に資する地域資源の活用を構想できる。				
授業内容のレベル・関連科目	本講の目途は、地域資源に関して、従来の目的や利用と異なる新しい意味や活用を発見することであり、可能な限り、講義の内容とテーマを、まちづくり、共生社会、生涯学習、キャリアデザイン等の学びへ結びつけていくことが期待される。				
授業外学習(予習・復習)	[事前学習] 身近な地域資源を発掘し各回の講義テーマと積極的に結びつけて学習の準備に努めること。 [事後学習] 学習した内容を関連科目の学びや自身の社会生活へ活用していくことに努めること。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特になし。事前もしくは講義中にプリントを適宜配布する。				
参考書・その他教材	<ul style="list-style-type: none"> ・ジョン・フィールド『社会関係資本』明石書店(2021) ・古賀弥生『芸術文化とちいきづくり-アートで人とまちをしあわせに-』九州大学出版会(2020) ・藻谷浩介『里山資本主義-日本経済は安心の原理で動く-』角川書店(2013) 				
課題に対するフィードバック	小課題・リアクションペーパーはコメントをつけて返却し、適宜、関連資料を付して解説する。				
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題レポート[到達目標①②③](50%) ・小課題・リアクション・ペーパー[到達目標②③](40%) ・講義への参加状況(10%) 				
成績評価基準	授業の狙いにあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	地域資源とは、経済的に価値のあるものばかりではなく、例えば、文化・芸術がその地域住民の絆(きずな)や誇りを醸成することもあり、柔軟な思考と自由なアイデアづくりが期待されます。				
科目に関連した教員の実務経験	特になし				
担当教員への連絡方法	メールでの質問(okaniwa@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。授業終了後に、直接聞くことも可。				

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション –地域資源とは何か– シラバスを精読し講義の概要と方法について確認しておくこと。 講義の目的や内容について確認し、以降の講義の目標と展望を深める。
2 回	学習内容 予習 復習	地域資源の多様性とマネジメントの論理 現在の地域資源の種類と特徴について調べ、これらを活用事例について調べる。 身近な地域資源を発見し、その資源がどのように活用されているのか調べてみよう。
3 回	学習内容 予習 復習	関係人口・交流人口と観光資源 関係人口と交流人口の定義を概観し、観光に活用される地域資源について調べる。 定住人口から関係人口と交流人口へ論点の変遷を振り返り、まちづくりの理解を深める。
4 回	学習内容 予習 復習	エネルギー資源と経済開発 石油・ガス, レアアース, 再生可能エネルギー 地域に特有なエネルギー資源を調べ、経済開発とその課題について確認しておく。 私たちの社会を支えるエネルギー資源について振り返り、その活用の問題について理解を深める。
5 回	学習内容 予習 復習	自然資源の保全, 希少種の保護, ジオパーク, エコツーリズム 保全保護の対象である自然資源と人間社会との関係性について調べておくこと。 講義を振り返り、新たな発見やさらに調べてみたい事項について確認して理解を深める。
6 回	学習内容 予習 復習	「田園風景」の社会史 人々が集まる「景観 (landscape)」や「居場所 (niche)」についてその活用と課題について調べる。 文化財保護法の改正により文化財が拡張したことを振り返り、新しい地域資源について考える。
7 回	学習内容 予習 復習	地域資源としての埋蔵文化財 遺跡の発掘や考古学資料などの埋蔵文化財が地域活性化の資源となる事例について調べておく。 講義を振り返り、考古学上の発見が社会的に大きな影響を与えた事例について理解を深める。
8 回	学習内容 予習 復習	建築物, 建造物群, 街なみ, ランドマーク 地域(まち)を表象する建物や建造物群とその活用と課題について調べる。 文化財保護法の改正により文化財が拡張したことを振り返り、新しい地域資源について考える。
9 回	学習内容 予習 復習	無形の地域資源 –祭礼・信仰・技術・パフォーマンス– 無形の地域資源について調べ、伝承・保護と活用の両立を達成する施策について考える。 講義を振り返り、無形の資源を伝承し、地域資源として蓄積するための方策について構想してみる。
10 回	学習内容 予習 復習	地域資源としての食・食文化 地域に特有な食文化や観光資源として活用されているレシピ・食材等について調べておくこと。 講義を振り返り、食をキーワードとしたまちづくりと資源化のプロセスについて理解を深める。
11 回	学習内容 予習 復習	みやげもの (Souvenir) の類型と意味 みやげものに関する「Gordonの5類型」を確認しておくこと(資料は事前配布します) 講義を振り返り、みやげものとして資源化されるモノや活動を自分なりにまとめてみる。
12 回	学習内容 予習 復習	博物館・美術館とアート・マネジメント 博物館・美術館を基軸としたまちづくりの事例を調べておくこと。 講義を振り返り、博物館・美術館が地域活性化に資する資源として活用可能であることを確認する。
13 回	学習内容 予習 復習	廃校利用と目的外利用の意義 少子化の影響で増加する学校の廃校事例を調べ、その再利用方法について調べる。 講義を振り返り、施設を目的外で利用する時代の背景と意義について、自身の考えをまとめておく。
14 回	学習内容 予習 復習	多様化する地域資源 –医療, 福祉, 子育て, 女性活躍, 防災– 医療, 福祉, 子育て, 女性活躍, 防災等をまちづくりに活用している事例を調べる。 地域資源の多様性と柔軟性を振り返り、身近な地域社会に潜在している地域資源を発掘する。
15 回	学習内容 予習 復習	まとめ・総括 –社会関係資本と地域資源– これまでの講義を振り返り、可能な限り近接する講義や日常の問題意識に結びつけること。 学習内容を各自の学問的関心や社会生活上の課題に接続させ、今後の学びを発展させていく。

科目名	地域ブランド論		科目コード	SC332	
英文名	Regional Innovation		科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)	
担当教員	山崎 寿美子	教員コード	147	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日/2時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応	<input type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	<input checked="" type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探求する	<input type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	人口減少や少子高齢化が進む現代社会において、地域の活性化に向けて、その地域特有の歴史、文化、特産品、景観など有形無形の資源について考え、地域の方々と交流しながら、その価値を理解していく。				
授業の狙い・到達目標	地域ブランドは、特産品・名産品づくりだけでなく、訪れる・購入する・交流する・住むことを促すような、歴史、文化、景観、人々のコミュニティなどを含めた総合的な体系であることを理解できるようになる。その際、地域資源の活性化に関わる活動に取り組んでいच्छる地域の方々との交流を重視し、「体感する」ことを主眼におき、実践につなげることができる。				
授業内容のレベル・関連科目	ディスカッションや地域の方との交流には、日本語によるコミュニケーション能力が必要となる。(関連科目)社会調査法、文化人類学、循環型社会論				
授業外学習(予習・復習)	日頃から、地域社会・地域文化に興味を持ち、さまざまな問題に対し、自分の考えを持てるように努めること。また、テーマごとにディスカッションしたりレポートが書けるよう、配布資料やフィールドワークのメモなどを復習すること。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間
使用教科書	指定しない。				
参考書・その他教材	授業ごとに資料を配布するとともに、テーマに合わせて適宜参考文献を指示する。				
課題に対するフィードバック	各回に出した課題については、翌週の授業でコメントをする。				
成績評価方法	レポート(50%)、フィールドワークやプレゼンテーションへの積極的な参加(50%)				
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する				
履修上の注意事項や学習上の助言	フィールドワークを実施することが複数回ある。本科目を履修するには、「社会調査法」も合わせて受講すること。また、後期に「文化人類学」および「循環型社会論」も受講することが望ましい。				
科目に関連した教員の実務経験	特になし				
担当教員への連絡方法	質問はメール(yamazaki@aikoku-u.org)で受け付ける。				

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション—授業の目的、内容、進め方について説明する。 シラバスを読み、授業の内容についておおまかに理解しておくこと。 授業の趣旨を理解し、今後の取り組みについてイメージをもっておくこと。
2 回	学習内容 予習 復習	地域について調べる①四街道市の歴史 事前に配布する資料に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。 資料を読み返し、内容をまとめておく。
3 回	学習内容 予習 復習	地域について調べる②四街道市の産業 事前に配布する資料に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。 資料を読み返し、内容をまとめておく。
4 回	学習内容 予習 復習	地域について調べる③四街道市の特産品・名産品 事前に配布する資料に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。 資料を読み返し、内容をまとめておく。
5 回	学習内容 予習 復習	地域について調べる④人と人をつなぐコミュニティ 事前に配布する資料に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。 資料を読み返し、内容をまとめておく。
6 回	学習内容 予習 復習	四街道市の産業に関するフィールドワーク 調査するフィールドについて調べておくこと。 調査中にメモをしたことを中心に特徴をまとめる。
7 回	学習内容 予習 復習	フィールドワークの結果と考察①四街道市の産業について ディスカッションをできるように自分の意見をまとめておく。 ディスカッションの内容をまとめておく。
8 回	学習内容 予習 復習	グループワーク① グループワークをするために、ディスカッションの内容を振り返っておく。 アイデアを整理する。
9 回	学習内容 予習 復習	プレゼンテーション①四街道市の産業をテーマに地域活性化のアイデアを提案する グループごとにプレゼンテーションの準備をする。 提示された課題への回答を考えておく。
10 回	学習内容 予習 復習	四街道市の特産品・名産品に関するフィールドワーク 調査するフィールドについて調べておくこと。 調査中にメモをしたことを中心に特徴をまとめる。
11 回	学習内容 予習 復習	フィールドワークの結果と考察②四街道市の特産品・名産品について ディスカッションをできるように自分の意見をまとめておく。 ディスカッションの内容をまとめておく。
12 回	学習内容 予習 復習	グループワーク② グループワークをするために、ディスカッションの内容を振り返っておく。 アイデアを整理する。
13 回	学習内容 予習 復習	プレゼンテーション②四街道市の特産品・名産品をテーマに地域活性化のアイデアを提案する グループごとにプレゼンテーションの準備をする。 提示された課題への回答を考えておく。
14 回	学習内容 予習 復習	地域活性化のアイデアの実践 第9回・第13回のプレゼンテーションで提示されたアイデアを振り返っておく。 地域との関わりのなかでの気づきをまとめておく。
15 回	学習内容 予習 復習	これまでの授業のまとめ—四街道市について得られた知識やアイデアをディスカッションする これまでのプレゼンテーションの課題をまとめる。 授業中のディスカッションについてまとめてレポートを書く。

科目名	地域文化と共生		科目コード	SC338	
英文名	Inclusive Society and Local Cultures		科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)	
担当教員	晨 晃	教員コード	209	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	月曜日・3時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける	○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探求する		6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	グローバル化に伴う多文化共生現象について日本の社会環境の中で学ぶ。講義では学生の主体的学習(学生間の議論・発表)を重視し、協働で学問を深める。				
授業の狙い・到達目標	日本社会の現実から、多文化共生の基本的な考え方を学び、多文化共生と自分自身の生活経験との関連性を認識する。日本社会の中でますます進んでいる多文化共生現象について理解を深め、日本社会に関心を持ち、自分なりの考え方を形成できるようになる。				
授業内容のレベル・関連科目	最新情報に基づいて多文化共生に関する現状と知識を得る。その中で社会学の視点からあらゆる要因を分析する力を身につける。				
授業外学習(予習・復習)	授業の前にインターネットを利用して情報を収集し、研究発表を読み、授業後、授業の内容について質問や感想文をまとめて提出する。次の授業で解答や意見交換を行う。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特になし				
参考書・その他教材	日本政府のウェブサイト(総務省)など https://www.soumu.go.jp/menu_seisaku/chiho/02gyosei05_03000060.html 毎日のニュースを注目すること				
課題に対するフィードバック	授業に関する質問や感想文を毎回提出させ、次の授業で解答や意見交換を行う。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。				
成績評価方法	期末レポート(40%)、課題(30%)、授業への貢献度(30%)で総合的に評価する。				
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	主体的に学習に取り組むこと。日頃から社会の諸事情に関心を持つことが求められる。				
科目に関連した教員の実務経験	特になし				
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。(mail to: hayashi@aikoku-u.org) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること				

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション——授業の目的と内容、授業の進め方などについて学ぶ。 シラバスを熟読し、授業の概要についておおむね理解しておくこと 授業の目的・内容、授業の進め方などについて振り返り、理解を深めること
2 回	学習内容 予習 復習	「多文化共生」概念の整理 多文化共生という基礎概念について調べ、理解すること 多文化共生現象研究の開始、発展について振り返り、レポートを提出すること
3 回	学習内容 予習 復習	島国としての日本と多文化共生 日本社会の特徴について調べ、理解すること 日本と多文化共生の関連性について振り返り、レポートを提出すること
4 回	学習内容 予習 復習	多文化共生の条件について学ぶ。 文化における言語、習慣、宗教の役割について調べ、理解すること 以上の諸要素の意義について振り返り、レポートを提出すること
5 回	学習内容 予習 復習	多文化共生によって発生する問題について学ぶ。 文化における言語、習慣、宗教の差異について調べ、理解すること 異文化コミュニケーションの問題点について振り返り、レポートを提出すること
6 回	学習内容 予習 復習	日本社会における技能実習生の現状について学ぶ。 技能実習生に関する情報や現状について調べ、理解すること 働く外国人と多文化共生の関係について振り返り、レポートを提出すること
7 回	学習内容 予習 復習	日本の外国人留学生について学ぶ。 留学生に関する情報や現状について調べ、理解すること 留学生と多文化共生の関係について振り返り、レポートを提出すること
8 回	学習内容 予習 復習	多文化共生に関する日本政府の政策・方針について学ぶ。 日本政府の政策や対策について調べ、理解すること 日本政府の政策について振り返り、レポートを提出すること
9 回	学習内容 予習 復習	日本各地の自治体と多文化共生について学ぶ。 自治体の多文化共生策について調べ、理解すること 自分の住む地域の現状について振り返り、レポートを提出すること
10 回	学習内容 予習 復習	ケーススタディー(1) 欧米人と日本社会 欧米人の日本社会における共生について調べ、理解すること 具体的な事例について調べて、レポートを提出すること
11 回	学習内容 予習 復習	ケーススタディー(2) アジア人と日本社会 韓国人、中国人、ベトナム人のケースについて調べ、理解すること 具体的な事例について調べて、レポートを提出すること
12 回	学習内容 予習 復習	ケーススタディー(3) その他の民族と日本社会 その他の民族の日本社会における共生について調べ、理解すること 具体的な事例について調べ、レポートを提出すること
13 回	学習内容 予習 復習	多文化共生の将来について学ぶ 多文化共生の可能性について調べ、理解すること なぜ多文化共生が必要であるかについて振り返り、レポートを提出すること
14 回	学習内容 予習 復習	ディスカッション あなたの体験談 他人の気持ち、立場をいかに理解するかについて考えること 授業を受ける前と受けた後、自分の変化について振り返り、レポートを提出すること
15 回	学習内容 予習 復習	まとめ——多文化共生の意義について学ぶ 人類の将来と多文化共生の関係について調べ、理解すること 今までの授業内容を振り返り、多文化共生の諸課題をとりまとめること

科目名	社会調査法		科目コード	SC332	
英文名	Social Reserch Methods		科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(必修)	
担当教員	山崎 寿美子	教員コード	147	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日/1時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応	<input type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける	<input type="radio"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	<input type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う	<input type="radio"/>	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	<input checked="" type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探求する	<input type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	地域や文化についての深い理解には、文献購読の他、聞き取りや参与観察に基づく現地調査が欠かせない。本授業では、文化人類学的な調査について講義した後、グループごとにテーマを設定し、地域団体や市役所等のご協力を得ながら、実践的に調査を行なう。				
授業の狙い・到達目標	卒業研究で調査を行うことを前提に、受講生が自ら研究の問いを立て、調査計画を考えられるようになることを目指す。調査の意義・方法に関する基礎的な知識を習得するとともに、インフォーマントとの関わりのなかで調査をすることはどういうことかを実践的に学ぶことができる。				
授業内容のレベル・関連科目	授業内でのディスカッションや地域の方々との交流には、日本語によるコミュニケーション能力が必要となる。(関連科目)地域ブランド論、文化人類学、循環型社会論				
授業外学習(予習・復習)	実践的な授業のため、事前に調査のテーマに関する情報を調べたり、調査後にはデータを整理したりするなど、積極的な取り組みが不可欠である。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	指定しない。				
参考書・その他教材	松村圭一郎『はみだしの人類学 ともに生きる方法 NHK出版 学びのきほん』NHK出版、2020年。梶丸岳・丹羽朋子・椎野若菜(編)『フィールドノート古今東西』、古今書院、2016年。				
課題に対するフィードバック	各回に出した課題については、翌週の授業でコメントをする。				
成績評価方法	レポート(50%)、フィールドワークやプレゼンテーションへの積極的な参加(50%)				
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	フィールドワークを実施することが複数回ある。本科目を履修するには、「地域ブランド論」も合わせて受講すること。また、後期に「文化人類学」および「循環型社会論」も受講することが望ましい。				
科目に関連した教員の実務経験	特になし				
担当教員への連絡方法	質問はメール(yamazaki@aikoku-u.org)で受け付ける。				

授業スケジュール

社会調査法

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション—授業の目的、内容、進め方について説明する。 シラバスを読み、授業の内容についておおまかに理解しておくこと。 授業の趣旨を理解し、今後の取り組みについてイメージをもっておくこと。
2 回	学習内容 予習 復習	問いを立てる①研究や調査の前提となる問いと仮説について考える 事前に配布する資料を読んでくること。 授業をふまえて資料を読み返し、要点をまとめておくこと。
3 回	学習内容 予習 復習	問いを立てる②新聞記事から 新聞を読み、社会問題に関する記事を選んで持ってくること。 自身で研究の問いが立てられるよう、授業内容を復習すること。
4 回	学習内容 予習 復習	インタビュー調査について学ぶ①講義 事前に配布する資料を読んでくること。 授業をふまえて資料を読み返し、要点をまとめておくこと。
5 回	学習内容 予習 復習	インタビュー調査について学ぶ②四街道市で活動する団体へのインタビュー 事前に情報を調べ、インタビュー項目を作成してくること。 インタビューの内容をまとめておくこと。
6 回	学習内容 予習 復習	インタビュー調査について学ぶ③ディスカッション インタビューの内容について、ディスカッションできるよう整理しておくこと。 他の受講生の発表を受けて、仮説を再検討すること。
7 回	学習内容 予習 復習	参与観察について学ぶ。 事前に配布する資料を読んでくること。 授業をふまえて資料を読み返し、要点をまとめておくこと。
8 回	学習内容 予習 復習	ライフストーリー調査について学ぶ 事前に配布する資料を読んでくること。 授業をふまえて資料を読み返し、要点をまとめておくこと。
9 回	学習内容 予習 復習	フィールドワークの実践①グループごとに調査計画をつくる 四街道市で活動する団体や専門家などについて調べ、調査のテーマを考えてくること。 アドバイスを受けて、調査計画を再検討すること。
10 回	学習内容 予習 復習	フィールドワークの実践②調査計画を推敲する グループごとに調査計画を練り直し、発表できるよう準備すること。 他のグループの発表を受けて、良い点、改善点をまとめ、自分たちの計画に活かすこと。
11 回	学習内容 予習 復習	フィールドワークの実践③調査の実施 調査協力者にアポを取り、調査の準備を整えること。 調査で得られたデータを整理して、途中経過を報告すること。
12 回	学習内容 予習 復習	フィールドワークの実践④調査の実施(続き) 前回の調査での反省点・改善点や気づきをグループで話し合っておくこと。 調査で得られたデータを整理して、報告できるようまとめること。
13 回	学習内容 予習 復習	フィールドワークの実践⑤調査データの報告(グループ1)とディスカッション グループで話し合いを進め、調査のデータを報告する準備を整えること。 報告したグループは、内容をレポートにまとめて提出すること。
14 回	学習内容 予習 復習	フィールドワークの実践⑥調査データの報告(グループ2)とディスカッション グループで話し合いを進め、調査のデータを報告する準備を整えること。 報告したグループは、内容をレポートにまとめて提出すること。
15 回	学習内容 予習 復習	総合討論 互いのグループの報告について、良い点・改善点などをまとめてくること。 ディスカッションで提示された課題について、各自が自分の意見をまとめて提出すること。

科目名	農業史		科目コード	SC336	
英文名	Agricultural History		科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)	
担当教員	中村 壘	教員コード	138	単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	火曜日・3時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応	<input type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	<input checked="" type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	<input type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探求する	<input type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	<p>当たり前のことであるが、人間は食料なくしては生きていくことができない。したがって人間は、人間に食料を供給する第1次産業、特に農業とともに長い歴史を歩んできた。しかしながら、人間が作った社会の仕組みは各時代によって異なるため、社会の影響を受けやすいという性格を持つ農業は、それぞれの時代ならではの姿もあらわしてきた。農業について、時代を越えてつながっている点は何であるのか、各時代の中でのみみられた点は何であるのか、つまり歴史の連続している面と断絶している面の双方を意識しながら授業を進めていく。</p>				
授業の狙い・到達目標	日本における農業の歩みを学び、現代日本農業が有する諸問題の歴史的背景について理解できるようになる。				
授業内容のレベル・関連科目	<p>大学生の学修としては基本レベルである。 関連科目:社会経済史</p>				
授業外学習(予習・復習)	講義レジュメに沿って授業を進める。したがって予習として事前に目を通し、復習として授業後に再度見直すこと。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特になし				
参考書・その他教材	木村茂光編(2010)『日本農業史』吉川弘文館 講義レジュメを配布する。				
課題に対するフィードバック	授業の中でコメントをする。				
成績評価方法	定期試験(70%)、リアクションペーパー(30%)				
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	疑問点や不明点をそのままにせず、担当教員に必ず質問すること。				
科目に関連した教員の実務経験	特になし				
担当教員への連絡方法	メールアドレス:nakamura@aikoku-u.org 研究室:2号館2階研究室7				

授業スケジュール

農業史

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(授業の概要や目標などを確認する) シラバスをよく読んでおくこと 授業中に教員が話したことを振り返ること
2 回	学習内容 予習 復習	原始の農業 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
3 回	学習内容 予習 復習	古代の農業 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
4 回	学習内容 予習 復習	中世の農業 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
5 回	学習内容 予習 復習	近世の農業Ⅰ(新田開発の進展) 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
6 回	学習内容 予習 復習	近世の農業Ⅱ(集約農業の追求) 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
7 回	学習内容 予習 復習	近世の農業Ⅲ(農書の誕生) 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
8 回	学習内容 予習 復習	近世の農業Ⅳ(商業的農業の隆盛) 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
9 回	学習内容 予習 復習	近現代の農業Ⅰ(地租改正と農業) 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
10 回	学習内容 予習 復習	近現代の農業Ⅱ(農業・農村問題の登場) 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
11 回	学習内容 予習 復習	近現代の農業Ⅲ(小作争議の勃発) 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
12 回	学習内容 予習 復習	近現代の農業Ⅳ(戦時・戦後期) 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
13 回	学習内容 予習 復習	近現代の農業Ⅴ(高度経済成長と農業) 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
14 回	学習内容 予習 復習	近現代の農業Ⅵ(国際化時代の農業) 講義レジュメに目を通し、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
15 回	学習内容 予習 復習	定期試験に向けて これまでの授業で学んだことを振り返ること 教員の指示に従って、定期試験対策をすること

科目名	ビジネス情報学		科目コード	SC439	
英文名	Information Systems in Business		科目区分	【専門科目】 ビジネス専攻(必修)	
担当教員	大屋 伸彦	教員コード	161	単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	水曜日/1時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応	<input checked="" type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける	<input type="radio"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	<input type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	<input type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探求する	<input type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	本講義は変化の激しい情報化社会に対応するために必要な情報リテラシーとデータサイエンスの基礎を身につけることを目的とする。				
授業の狙い・到達目標	ビッグデータとは何かを理解し、ビジネスにおけるデータ活用の意義を説明できるようになること。 AI・データサイエンスがビジネスにどのように役立つのかを説明できるようになること。				
授業内容のレベル・関連科目	前提知識は必須ではないが、併せてベンチャービジネス論、経営管理論を履修することが望ましい。				
授業外学習(予習・復習)	復習を重視する。 不明な点や疑問点があれば次講義までに解決しておくこと。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教員が資料を配布する予定。				
参考書・その他教材	講義内で必要となった場合に指示する。				
課題に対するフィードバック	課題に対しては最終講義にフィードバックを行う。				
成績評価方法	期末試験(40%)、授業内レポート・演習(40%)、授業への取り組み(20%)				
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	「単位を取る」ことが目標ではなく、学んだことを社会に出たときに活かすことができるよう、主体性をもって取り組むことが求められる。				
科目に関連した教員の実務経験	特になし				
担当教員への連絡方法	メールでの質問(ohya@aikoku-u.org)またはオフィスアワー(初回講義時にアナウンスする)。メールでの問合せは、件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。				

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(講義の進め方)、社会で起きている変化 シラバスを読んでおくこと 講義の目的を理解しておくこと
2 回	学習内容 予習 復習	社会で活用されているデータ 世の中にあるデータにはどんなものがあるのか考えておくこと なぜ情報が必要なのか理解しておくこと
3 回	学習内容 予習 復習	データとAIの活用領域①マーケティング マーケティングにおけるデータ活用の事例を調べておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
4 回	学習内容 予習 復習	データとAIの活用領域②製造業等 社会で活用されているIoTについて調べておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
5 回	学習内容 予習 復習	データ・AI利活用のための技術①予測と分類 データサイエンスにおける予測と分類の意味を調べておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
6 回	学習内容 予習 復習	データ・AI利活用のための技術②非構造化データ処理 構造化データと非構造化データの違いについて調べておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
7 回	学習内容 予習 復習	データ・AI活用の現場 DX(デジタルトランスフォーメーション)について調べておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
8 回	学習内容 予習 復習	データ・AI活用の最新動向①機械翻訳 機械翻訳について調べておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
9 回	学習内容 予習 復習	データ・AI活用の最新動向②機械学習 機械学習について調べておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
10 回	学習内容 予習 復習	演習①データを読む エクセル操作を確認しておくこと 演習での不明な点は次の演習までに解決しておくこと
11 回	学習内容 予習 復習	演習②データを説明する エクセル操作を確認しておくこと 演習での不明な点は次の演習までに解決しておくこと
12 回	学習内容 予習 復習	演習③データを扱う エクセル操作を確認しておくこと 演習での不明な点は次の演習までに解決しておくこと
13 回	学習内容 予習 復習	データ・AIを扱う上での留意事項 個人情報保護、AI倫理について調べておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
14 回	学習内容 予習 復習	データを守る上での留意事項 情報セキュリティについて調べておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
15 回	学習内容 予習 復習	全体のまとめと期末試験の説明 1回から14回までの授業内容を復習しておくこと 全15回の授業内容を振り返って理解を深めておくこと

科目名	プログラミング基礎		科目コード	SC440	
英文名	Basic Programming		科目区分	【専門科目】 ビジネス専攻(選択)	
担当教員	日坂 彰	教員コード	137	単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	木曜日・4時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応	<input type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける	<input type="radio"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	<input checked="" type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う	<input type="radio"/>	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	<input type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探求する	<input type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	本講義では普及度や実用性の高いプログラミング言語を用いて、プログラミングの基本的な構文と動作に関する演習を行う。				
授業の狙い・到達目標	課題に対してプログラミングで可能な解決策を模索し、論理的思考力が向上する。 個人が低コストでアプリを開発できることを認識し、公開、奉仕、職業につながる可能性を探る。 プログラミングやアルゴリズムの基礎知識と技能を習得し、実際にプログラムの作成と実行ができる。				
授業内容のレベル・関連科目	プログラミングの基礎、C#言語の基礎／「情報科学概論」「情報資格演習」「情報システム論」				
授業外学習(予習・復習)	予習は資料を読み、用語を辞典、事典で調べておくこと。 復習は学習内容を定着させ、未理解事項を残さないこと。 各回に特化した予習、復習は授業スケジュールを参照のこと。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	WINGSプロジェクト 高江賢「基礎からしっかり学ぶC#の教科書 第3版 C#10対応 構文とサンプルコードでC#が学べる入門書 改訂新版」日経BP				
参考書・その他教材	プログラミング書籍全般、C#言語関連書籍				
課題に対するフィードバック	各段階毎に成果物を点検、フィードバックを行う。				
成績評価方法	成果物(70%)、授業への貢献度(30%)で総合的に評価する。				
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを、本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	本授業での指定教科書の値段は、本学内指定教科書の平均水準より高いと思われるため、履修にあたっては相応の覚悟をもって臨むこと。プログラミング技術に関心があり、その能力を向上させたい者は、各プログラミング言語の専門書や関連書を読むことを推奨する。				
科目に関連した教員の実務経験	特になし				
担当教員への連絡方法	本学 Google Workspace for Education Gmail:anissaka@aikoku-u.org				

1 回	学習内容 予習 復習	プログラミング概論 シラバスを熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 プログラミング概論に関する指定課題を解くこと。
2 回	学習内容 予習 復習	プログラムの作成と実行 プログラムの作成と実行の指定資料を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 プログラムの作成と実行に関する指定課題を解くこと。
3 回	学習内容 予習 復習	変数 変数の指定資料を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 変数に関する指定課題を解くこと。
4 回	学習内容 予習 復習	演算と型、数値計算 演算と型、数値計算の指定資料を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 演算と型、数値計算に関する指定課題を解くこと。
5 回	学習内容 予習 復習	プログラムの流れの分岐 プログラムの流れの分岐の指定資料を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 プログラムの流れの分岐に関する指定課題を解くこと。
6 回	学習内容 予習 復習	プログラムの流れの繰り返し プログラムの流れの繰り返しの指定資料を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 プログラムの流れの繰り返しに関する指定課題を解くこと。
7 回	学習内容 予習 復習	配列 配列の指定資料を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 配列に関する指定課題を解くこと。
8 回	学習内容 予習 復習	関数 関数の指定資料を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 関数に関する指定課題を解くこと。
9 回	学習内容 予習 復習	基本型 基本型の指定資料を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 基本型に関する指定課題を解くこと。
10 回	学習内容 予習 復習	ソートとサーチ ソートとサーチの指定資料を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 ソートとサーチに関する指定課題を解くこと。
11 回	学習内容 予習 復習	再帰 再帰の指定資料を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 再帰に関する指定課題を解くこと。
12 回	学習内容 予習 復習	データ構造 データ構造の指定資料を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 データ構造に関する指定課題を解くこと。
13 回	学習内容 予習 復習	木、グラフ 木、グラフの指定資料を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 木、グラフに関する指定課題を解くこと。
14 回	学習内容 予習 復習	文字と文字列 文字と文字列の指定資料を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 文字と文字列に関する指定課題を解くこと。
15 回	学習内容 予習 復習	ファイル処理 ファイル処理の指定資料を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 ファイル処理に関する指定課題を解くこと。

科目名	ビジネスモデル論		科目コード	SC441	
英文名	Business Model Studies		科目区分	【専門科目】 ビジネス専攻(必修)	
担当教員	吉元 菜々子	教員コード	165	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	金曜日・2時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける	○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	グローバル化やIT化が進んだ現代社会では、商品のイノベーションのみではビジネスにおいて利益を生み出すのは難しく、独創的なビジネスモデルの構築が不可欠だとされている。本授業では、ビジネスモデルとは何かを理解することからはじめ、様々な企業のビジネスモデルを具体的に検討し、その特徴を理解していく。				
授業の狙い・到達目標	ビジネスモデルについての基礎的な知識を習得し、具体的なビジネスモデルからその特徴を分析することを通じて、新たなビジネスモデルを構築するための基礎を養うことができる。また企業の活動を知ることによって、卒業後のキャリアや社会活動について主体的に考えることができるようになる。				
授業内容のレベル・関連科目	ビジネス全般についての入門的な講義である。				
授業外学習(予習・復習)	事前に授業計画を確認し、各回のトピックについて自分なりに調べるなどの予習をすること。また復習として、授業後は配布資料や自分で作成したノートをもとに授業内容を振り返ること。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教科書は使用しない。必要に応じて授業内で資料を配布する。				
参考書・その他教材	平野敦士カール監修(2019)『知識ゼロでも今すぐ使える！ビジネスモデル見るだけノート』宝島社 オスターワルダー、A./Y. ピニユール(2012)『ビジネスモデル・ジェネレーション——ビジネスモデル設計書』小山龍介訳、翔泳社				
課題に対するフィードバック	授業内で前回の授業のリアクションペーパーを適宜紹介し、質問への回答やフィードバックを行う。				
成績評価方法	平常点(40%)、レポート(60%)により評価する。				
成績評価基準	学習の到達目標にどの位到達したかを、本学の学業成績判定に関する規定の基準に基づき評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	日ごろから授業に関連するニュースを意識し、調べる習慣をつけること。 授業計画は、受講生の理解度や要望に応じて若干の変更を加える場合がある。				
科目に関連した教員の実務経験	特になし。				
担当教員への連絡方法	質問等はメール(yoshimoto@aikoku-u.org)にて受け付ける。				

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション——ビジネスモデルとは何か シラバスを読み、授業の概要と目的について理解をしておくこと。 授業の目的を理解し、今後の授業計画について確認すること。
2 回	学習内容 予習 復習	人間社会と経済——ビジネスと非ビジネスの間 店で商品を買うことと、人から贈り物をもらうことの違いについて考え、まとめておくこと 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
3 回	学習内容 予習 復習	会社組織におけるシステムとネットワーク 任意で選んだ企業の組織図を調べ、まとめておくこと 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
4 回	学習内容 予習 復習	仕事と「遊び」 自分の一日の行動を「仕事」と「遊び」のどちらかに分けて、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
5 回	学習内容 予習 復習	ビジネスモデルの歴史 ビジネスモデルという言葉の意味を調べ、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
6 回	学習内容 予習 復習	ビジネスの基本モデル——基礎的な概念 商品が販売されるまでのプロセスについて考え、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
7 回	学習内容 予習 復習	ビジネスモデルの構築法 自分が日ごろからよく購入する商品の魅力について考え、まとめておく。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
8 回	学習内容 予習 復習	モノとビジネスモデル 自分が普段、物を買うときに重視するポイントについて考え、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
9 回	学習内容 予習 復習	人とビジネスモデル 20代女性を顧客ターゲットとした商品にはどのようなものがあるかについて考えておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
10 回	学習内容 予習 復習	インターネットとビジネスモデル 「フリーミアム」という言葉の意味について調べ、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
11 回	学習内容 予習 復習	金の流れとビジネスモデル 「ロングテール」という言葉の意味について調べ、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
12 回	学習内容 予習 復習	市場と流通のビジネスモデル 「ドミナント戦略」という言葉の意味について調べ、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
13 回	学習内容 予習 復習	社会貢献とビジネスモデル 企業が行う社会貢献にはどのようなものがあるか調べ、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
14 回	学習内容 予習 復習	発展途上国とビジネスモデル 発展途上国に進出した日本企業について調べ、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
15 回	学習内容 予習 復習	まとめ——働くということ これまでの授業で配布したレジュメを振り返り、不明点や疑問点を明確にしておくこと。 これまでの授業を振り返り、受講内容について理解を深めること。

科目名	簿記論			科目コード	SC442	
英文名	Bookkeeping			科目区分	【専門科目】 ビジネス専攻(必修)	
担当教員	呉 鳶	教員コード	157	単位数	2単位	
開講期間	前期	曜日・時限	火曜日・2時限	授業形態	講義	
学位授与方針との対応	<input type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける	<input checked="" type="radio"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	<input type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う	<input type="radio"/>	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	<input type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探求する	<input type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	簿記を学習することは、企業の経済活動を理解し、これを整理、計算して有用な情報としてまとめることができる。本講義では、会計学概論よりも、演習問題を数多く解く講義になる。「知識として知っている」段階から、実践的に「使いこなせる」段階へ引き上げるための講義となる。					
授業の狙い・到達目標	会計学概論が簿記の入門編であるのに対し、本講義および簿記演習は実践編である。日本商工会議所簿記検定3級に合格できるようなスキルアップだけでなく、簿記上の取引に関する本質的な理解ができるようになり、3級以上の自主学習に必要なとされる理解力を持てるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	日本商工会議所簿記検定3級以上の合格を実践的なターゲットとする。 関連科目:会計学概論、簿記演習					
授業外学習(予習・復習)	予習:授業の計画を事前に確認して、積極的に予習に取り組む。 復習:教科書、演習問題を復習し、基礎知識を身につけるように振り返る。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間	
使用教科書	蛭川幹夫著『日商簿記ゼミ3級 教本 改訂版』実教出版(2019) 蛭川幹夫著『日商簿記ゼミ3級 問題演習』実教出版(2019)					
参考書・その他教材	担当教員が作成する配布資料、電卓					
課題に対するフィードバック	提出された課題を確認してから、翌週の授業時に解答・解説を行う。					
成績評価方法	期末試験(70%)、演習問題理解度(20%)、平常点(10%)					
成績評価基準	演習問題の理解度、期末試験の結果などを踏まえて、本学の「学業成績判定に関する規定の基準」に基き、到達度を総合的に評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	学習効果を高めるために、簿記演習とあわせて履修することを推奨する。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問や相談など、メール(wu@aikoku-u.org)でも対応可。件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載する。					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(講義の概要、達成目標など)、簿記の学習にあたり、取引の本質 シラバスを事前に確認して、教科書の序章を予習する。 講義内容を復習し、演習問題を完成する。
2 回	学習内容 予習 復習	簿記の基礎、演習問題と解説 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 講義内容、授業中の演習問題と解説を復習し、追加の演習問題を完成する。
3 回	学習内容 予習 復習	貸借対照表と損益計算書(1)、演習問題と解説 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 講義内容、授業中の演習問題と解説を復習し、追加の演習問題を完成する。
4 回	学習内容 予習 復習	貸借対照表と損益計算書(2)、演習問題と解説(履修生による解説、講評) 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 講義内容、授業中の演習問題と解説を復習し、追加の演習問題を完成する。
5 回	学習内容 予習 復習	損益法、損益計算書等式、演習問題と解説(履修生による解説、講評) 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 講義内容、授業中の演習問題と解説を復習し、追加の演習問題を完成する。
6 回	学習内容 予習 復習	企業の取引と勘定、演習問題と解説 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 講義内容、授業中の演習問題と解説を復習し、追加の演習問題を完成する。
7 回	学習内容 予習 復習	仕訳帳の記入法と総勘定元帳への転記(1) 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 講義内容、授業中の演習問題と解説を復習し、追加の演習問題を完成する。
8 回	学習内容 予習 復習	仕訳帳の記入法と総勘定元帳への転記(2) 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 講義内容、授業中の演習問題と解説を復習し、追加の演習問題(検定問題)を完成する。
9 回	学習内容 予習 復習	試算表(合計試算表、残高試算表、合計残高試算表)、演習問題と解説 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 講義内容、授業中の演習問題と解説を復習し、追加の演習問題(検定問題)を完成する。
10 回	学習内容 予習 復習	期中取引の仕訳(1)、演習問題と解説 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 講義内容、授業中の演習問題と解説を復習し、追加の演習問題を完成する。
11 回	学習内容 予習 復習	期中取引の仕訳(2)、演習問題と解説(履修生による解説、講評) 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 講義内容、授業中の演習問題と解説を復習し、追加の演習問題(検定問題)を完成する。
12 回	学習内容 予習 復習	補助簿の記帳(現金出納帳など)、演習問題と解説 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 講義内容、授業中の演習問題と解説を復習し、追加の演習問題を完成する。
13 回	学習内容 予習 復習	演習問題形式による講義の復習と解説 第2～12回の講義内容、演習問題を復習する。 第2～12回の講義内容、演習問題を復習し、追加の演習問題(検定問題)を完成する。
14 回	学習内容 予習 復習	貸借対照表と損益計算書の作成、演習問題と解説 第3～5回の講義内容を復習し、配布資料と教科書の指定ページを予習する。 講義内容、第3～5回の講義内容を復習し、追加の演習問題(検定問題)を完成する。
15 回	学習内容 予習 復習	総括(簿記一巡の要点をまとめる) 第1～14回の講義内容、演習問題を復習する。 第1～14回の講義内容、演習問題を復習し、追加の演習問題(検定問題)を完成する。

科目名	財務管理論			科目コード	SC443	
英文名	Financial Management			科目区分	【専門科目】 ビジネス専攻(選択)	
担当教員	呉 鳶	教員コード	157	単位数	2単位	
開講期間	前期	曜日・時限	月曜日・3時限	授業形態	講義	
学位授与方針との対応	<input type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける	<input checked="" type="radio"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	<input type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う	<input type="radio"/>	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	<input type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探求する	<input type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	本講義では財務諸表の見方と分析方法を講義する。企業の財務的意思決定を理解するために、事業活動への投資、資金調達、利益の配分等に関する基礎知識と分析のスキルを習得する。					
授業の狙い・到達目標	財務管理の基礎知識を習得することが狙いである。具体的には、財務諸表に関する各指標の意義と計算の仕組みを学び、企業の経営分析と管理会計の基本に対する的確に理解する能力を持てるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	本講義では、会計学概論の関連知識をベースとしながら、財務諸表の見方と分析方法をより具体的に解説する。 関連科目:会計学概論、簿記論、簿記演習、原価計算論					
授業外学習(予習・復習)	予習:授業の計画を事前に確認して、積極的に予習に取り組む。 復習:教科書などを確認しながら、基礎知識を身につけるように振り返る。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間	
使用教科書	平野秀輔著『財務管理の基礎知識 第4版』白桃書房(2023)					
参考書・その他教材	担当教員が作成する配布資料					
課題に対するフィードバック	提出された課題を確認してから、翌週の授業時に返却して解答・解説を行う。					
成績評価方法	期末試験(70%)、課題提出(20%)、平常点(10%)					
成績評価基準	課題への理解度、期末試験の結果などを踏まえて、本学の「学業成績判定に関する規定の基準」に基づき、到達度を総合的に評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	主体的に学習に取り組むこと。学習効果を高めるため、原価計算論など、他の会計学関連科目と合わせて履修することを推奨する。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問や相談など、メール(wu@aikoku-u.org)でも対応可。件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載する。					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(講義の概要、学習の進め方、達成目標など)、財務管理とは シラバスを事前に確認して、教科書の序章を予習する。 配布資料、授業中の解説(板書)と教科書の序章を復習する。
2 回	学習内容 予習 復習	財務諸表の考え方 配布資料、教科書の指定ページを予習する。 配布資料、授業中の解説(板書)と教科書の指定ページを復習し、演習問題を完成する。
3 回	学習内容 予習 復習	経営分析の基礎 配布資料、教科書の指定ページを予習する。 配布資料、授業中の解説(板書)と教科書の指定ページを復習し、演習問題を完成する。
4 回	学習内容 予習 復習	収益性の分析、演習問題と解説(履修生による解説を含む) 配布資料、教科書指定ページを予習する。 配布資料、授業中の解説(板書)と教科書の指定ページを復習し、演習問題を完成する。
5 回	学習内容 予習 復習	付加価値の分析、演習問題と解説 配布資料、教科書指定ページを予習する。 講義内容、演習問題と解説を復習し、追加の演習問題を完成する。
6 回	学習内容 予習 復習	財務安定性の分析、演習問題と解説(履修生による解説を含む) 配布資料、教科書指定ページを予習する。 講義内容、演習問題と解説を復習し、追加の演習問題を完成する。
7 回	学習内容 予習 復習	第2～6回講義の復習、演習問題と解説(履修生による解説、講評を含む) 第2～6回の講義内容、演習問題と解説を復習する。 第2～7回の講義内容、演習問題と解説を復習し、追加の演習問題を完成する。
8 回	学習内容 予習 復習	損益分岐点の分析 配布資料、教科書指定ページを予習する。 配布資料、授業中の解説(板書)と教科書の指定ページを復習し、演習問題を完成する。
9 回	学習内容 予習 復習	キャッシュ・フローの分析(1) 配布資料、教科書指定ページを予習する。 配布資料、授業中の解説(板書)と教科書の指定ページを復習し、演習問題を完成する。
10 回	学習内容 予習 復習	キャッシュ・フローの分析(2) 配布資料、教科書指定ページを予習する。 配布資料、授業中の解説(板書)と教科書の指定ページを復習し、演習問題を完成する。
11 回	学習内容 予習 復習	会計管理の基礎概念 配布資料、教科書指定ページを予習する。 配布資料、授業中の解説(板書)と教科書の指定ページを復習する。
12 回	学習内容 予習 復習	経営計画と予算 配布資料、教科書指定ページを予習する。 配布資料、授業中の解説(板書)と教科書の指定ページを復習し、演習問題を完成する。
13 回	学習内容 予習 復習	意思決定会計 配布資料、教科書指定ページを予習する。 配布資料、授業中の解説(板書)と教科書の指定ページを復習し、演習問題を完成する。
14 回	学習内容 予習 復習	第8～13回講義の復習、演習問題と解説、企業価値の算定方法 第8～13回の講義内容、演習問題と解説を復習し、配布資料を予習する。 第8～14回の講義内容、演習問題と解説を復習し、追加の演習問題を完成する。
15 回	学習内容 予習 復習	総括:第2～14回講義の復習、演習問題の解説(履修生による解説、講評を含む) 第2～14回の講義内容、演習問題と解説を復習する。 第2～14回の講義内容、演習問題と解説を復習し、追加の演習問題を完成する。

科目名	マーケティング論			科目コード	SC444	
英文名	Marketing Theory			科目区分	【専門科目】 ビジネス専攻(必修)	
担当教員	中野 慶昭		教員コード	163		単位数 2単位
開講期間	後期	曜日・時限	木曜日・2時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	<input type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける		<input checked="" type="radio"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		<input type="radio"/>	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	<input type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探究する			6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	マーケティングに関する基礎的な知識を学ぶ。					
授業の狙い・到達目標	マーケティングの考え方を、マーケティングの基本的な考え方4P(Product、Place、Promotion、Price)の内容に即して学び、また、4Pの組み合わせであるマーケティングミックスについて理解することでマーケティングの基礎的な知識を習得することができる。					
授業内容のレベル・関連科目	マーケティング論の入門から基礎までを学ぶ。経営学概論の知識と合わせることにより、企業活動をより深く、具体的に知ることができる。					
授業外学習(予習・復習)	予習は、事前に配布資料を読んでおき、内容を理解しておくこと。 復習は、授業内容を振り返り、課題を提出すること。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教員が資料を配布する予定。					
参考書・その他教材	野口智雄、『ビジュアル マーケティングの基本』、日経文庫。					
課題に対するフィードバック	毎回課題を出題し、その内容を次回の講義で共有する。					
成績評価方法	最終レポート(50%)、小レポート(30%)、平常点(20%)					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	授業後の振り返りを必ず行い、小レポートについては自身の身近な出来事や話題を用いながら作成すること。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問はメールやChatでも受け付ける。 メールの場合は、件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。					

1 回	学習内容 予習 復習	<イントロダクション> 講義の概要と進め方を説明する シラバスを読んでおくこと 本日の授業内容を振り返る
2 回	学習内容 予習 復習	<マーケティングとはなにか> 4P、4C、マーケティングコンセプトなど、マーケティングの考え方に触れる 教科書を読んでおくこと 本日の授業内容を振り返る
3 回	学習内容 予習 復習	<市場の捉え方> セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニングなど市場のつかみ方を概説する 教科書を読んでおくこと 本日の授業内容を振り返る
4 回	学習内容 予習 復習	<市場での競争とマーケティング> SWOT分析、ポートフォリオ分析、競争戦略などを概説する 事前資料を読んでおくこと 本日の授業内容を振り返る
5 回	学習内容 予習 復習	<製品管理①> 製品の考え方、開発プロセス、ライフサイクルなどの製品政策を概説する 教科書を読んでおくこと 本日の授業内容を振り返る
6 回	学習内容 予習 復習	<製品管理②> ブランドエクイティ、ブランド戦略などマーケティングにとってのブランドについて考える 教科書を読んでおくこと 本日の授業内容を振り返る
7 回	学習内容 予習 復習	<コミュニケーション方法> 顧客へのコミュニケーションの実施方法を手段、戦略などを通して考える 教科書を読んでおくこと 本日の授業内容を振り返る
8 回	学習内容 予習 復習	<前半のまとめ> 第2～7回の内容を振り返る 第2～7回の内容を復習してくる 本日の授業内容を振り返り、小レポートを作成する。
9 回	学習内容 予習 復習	<チャネルの構築方法①> チャネルの構築、チャネル政策の類型などについて概説する 教科書を読んでおくこと 本日の授業内容を振り返る
10 回	学習内容 予習 復習	<チャネルの構築方法②> 様々なチャネルについて概説する 教科書を読んでおくこと 本日の授業内容を振り返る
11 回	学習内容 予習 復習	<価格設定方法①> 価格設定の目的と方法について概説する 教科書を読んでおくこと 本日の授業内容を振り返る
12 回	学習内容 予習 復習	<価格設定方法②> 心理的価格設定や割引などについて概説する 教科書を読んでおくこと 本日の授業内容を振り返る
13 回	学習内容 予習 復習	<非製造業のマーケティング> サービスマーケティングなどについて概説する 配布資料を読んでおくこと 本日の授業内容を振り返る
14 回	学習内容 予習 復習	<後半のまとめ> 第9～13回の内容を振り返る 第9～13回の内容を教科書、レジュメで見直しておく 本日の授業内容を振り返り、小レポートを作成する
15 回	学習内容 予習 復習	<全体のまとめ> 本講義のまとめと復習を行う 第8回、14回を中心に復習しておく 全15回の授業内容を振り返り、最終レポートを作成する

科目名	経営組織論		科目コード	SC445	
英文名	Business Organization		科目区分	【専門科目】 ビジネス専攻(選択)	
担当教員	中野 慶昭	教員コード	163	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日・2時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応	<input type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける	<input type="radio"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	<input checked="" type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
		5.学習の過程で発見した課題を探究する	<input type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	経営組織の構成や組織内での個人の役割、望ましい組織の在り方などについて学ぶ。また、経営組織についての基本的知識を習得する。				
授業の狙い・到達目標	経営組織を学習しながらも、その中で働く個人からの視点も同時に理解できる。組織のなかの個人の欲求やモチベーション、モチベーションを喚起させる仕組み、集団の機能と組織、組織におけるリーダーシップなどについて理解できる。				
授業内容のレベル・関連科目	経営学概論を事前に受講していることが望ましい。 経営学概論で学習した基礎的な組織論をより深く学ぶ。				
授業外学習(予習・復習)	予習は、事前に配布資料を読んでおき、内容を理解しておくこと。 復習は、授業内容を振り返り、課題を提出すること。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教員が資料を配布する予定。				
参考書・その他教材	<ul style="list-style-type: none"> ・金井壽宏.『経営組織』. 日経文庫. ・村山昇.『キャリア・ウェルネス「成功者を目指す」から「健やかに働き続ける」への転換』. 日本能率協会マネジメントセンター 				
課題に対するフィードバック	毎回課題を出題し、その内容を次回の講義で共有する。				
成績評価方法	最終レポート(50%)、小レポート(30%)、平常点(20%)				
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	授業後の振り返りを必ず行い、小レポートについては自身の身近な出来事や話題を用いながら作成すること。				
科目に関連した教員の実務経験	特になし				
担当教員への連絡方法	質問はメールやChatでも受け付ける。 メールの場合は、件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。				

1 回	学習内容 予習 復習	<イントロダクション> 講義の概要と進め方を説明する シラバスを読んでおくこと 本日の授業内容を振り返る
2 回	学習内容 予習 復習	<組織とは何か> いろいろな組織の捉え方について概説する 教科書を読んでくること 本日の授業内容を振り返る
3 回	学習内容 予習 復習	<組織の中の個人①> 組織観と人間観、マズローの欲求5段階説などについて概説する 教科書を読んでくること 本日の授業内容を振り返る
4 回	学習内容 予習 復習	<組織の中の個人②> モチベーションとそれを喚起する仕組みについて概説する 教科書を読んでくること 本日の授業内容を振り返る
5 回	学習内容 予習 復習	<個人と組織> 個人と組織の関わり合い、組織の中での個人のキャリアなどについて概説する 教科書を読んでくること 本日の授業内容を振り返る
6 回	学習内容 予習 復習	<集団とは何か> 集団の定義、集団のダークサイドなどについて概説する 教科書を読んでくること 本日の授業内容を振り返る
7 回	学習内容 予習 復習	<リーダーシップ> 伝統的リーダーシップ論、企業における管理職の役割などについて概説する 教科書を読んでくること 本日の授業内容を振り返る
8 回	学習内容 予習 復習	<前半のまとめ> 第2～7回の内容を振り返る 第2～7回の内容を復習してくる 本日の授業内容を振り返り、小レポートを作成する。
9 回	学習内容 予習 復習	<組織構造> 官僚制組織論について概説する 教科書を読んでくること 本日の授業内容を振り返る
10 回	学習内容 予習 復習	<経営組織の形態と設計①> ラインとスタッフ、職能部門制組織、事業部制組織などについて概説する 教科書を読んでくること 本日の授業内容を振り返る
11 回	学習内容 予習 復習	<経営組織の形態と設計②> 組織設計の原理、組織構造の次元などについて概説する 教科書を読んでくること 本日の授業内容を振り返る
12 回	学習内容 予習 復習	<経営組織の動態化、組織変革> 個人、集団、組織レベルでの変革や阻害要因などについて概説する 教科書を読んでくること 本日の授業内容を振り返る
13 回	学習内容 予習 復習	<組織の方向付けと個人> 組織文化の捉え方、働く意味を与える組織などについて概説する。 教科書を読んでくること 本日の授業内容を振り返る
14 回	学習内容 予習 復習	<後半のまとめ> 第9～13回の内容を振り返る。 第9～13回の内容を教科書や 本日の授業内容を振り返り、小レポートを作成する
15 回	学習内容 予習 復習	<全体のまとめ> 本講義のまとめと復習を行う。 第8回、14回を中心に復習しておくこと 全15回の授業内容を振り返り、最終レポートを作成する

科目名	経営管理論		科目コード	SC446	
英文名	Business Management		科目区分	【専門科目】 ビジネス専攻(選択)	
担当教員	大屋 伸彦	教員コード	161	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	水曜日/1時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応	<input checked="" type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	<input type="radio"/>	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	<input type="radio"/>	5.学習の過程で発見した課題を探求する	<input type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	人々に影響を与える組織活動と組織を管理運営する手法について正しい方法を学ぶ。企業における様々なマネジメントについて学ぶ。				
授業の狙い・到達目標	経営管理論の基本的な用語や内容を理解し、企業が行う経営管理手法を把握することで、様々な企業形態において、どのような社会問題が存在しているのかを考えられるようになる。				
授業内容のレベル・関連科目	前提知識は必須ではないが、併せてベンチャービジネス論を履修することが望ましい。				
授業外学習(予習・復習)	予習・復習については教員からの指示に従い行うこと。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教員が資料を配布する予定。				
参考書・その他教材	塩次喜代明・高橋伸夫・小林敏男「経営管理」有斐閣アルマ				
課題に対するフィードバック	特になし				
成績評価方法	期末試験(80%)、講義への取り組み(20%)				
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	講義のはじめに前回講義の復習をする。				
科目に関連した教員の実務経験	特になし				
担当教員への連絡方法	メールでの質問(ohya@aikoku-u.org)またはオフィスアワー(初回講義時にアナウンスする)。メールでの問合せは、件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。				

授業スケジュール

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(講義の進め方など)、経営管理の現状と課題 シラバスを読んでおくこと 講義の目的を理解しておくこと
2 回	学習内容 予習 復習	経営管理の変遷 前講義で指示した事柄について調べておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
3 回	学習内容 予習 復習	経営管理の発展 前講義で指示した事柄について調べておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
4 回	学習内容 予習 復習	組織のデザイン 前講義で指示した事柄について調べておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
5 回	学習内容 予習 復習	組織構造のマネジメント① 前講義で指示した事柄について調べておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
6 回	学習内容 予習 復習	組織構造のマネジメント② 前講義で指示した事柄について調べておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
7 回	学習内容 予習 復習	モチベーションと組織活性化① 前講義で指示した事柄について調べておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
8 回	学習内容 予習 復習	モチベーションと組織活性化② 前講義で指示した事柄について調べておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
9 回	学習内容 予習 復習	経営のリーダーシップ 前講義で指示した事柄について調べておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
10 回	学習内容 予習 復習	前半のまとめ 第1回から第9回までの内容を振り返っておく 配布した資料を読み、理解しておくこと
11 回	学習内容 予習 復習	企業文化の創造と変革 前講義で指示した事柄について調べておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
12 回	学習内容 予習 復習	日本の経営管理 前講義で指示した事柄について調べておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
13 回	学習内容 予習 復習	グローバル戦略 前講義で指示した事柄について調べておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
14 回	学習内容 予習 復習	育てる経営の管理へ 前講義で指示した事柄について調べておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
15 回	学習内容 予習 復習	後半のまとめと期末試験の説明 11回から14回までの内容を復習しておく 全15回の講義を振り返り経営管理について理解を深めておくこと

科目名	経営戦略論		科目コード	SC447	
英文名	Business Strategy		科目区分	【専門科目】 ビジネス専攻(選択)	
担当教員	中野 慶昭	教員コード	163	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	火曜日・3時限	授業形態	講義
学位授与方針との対応	<input type="radio"/>	1.大学生としての幅広い教養を身につける	<input checked="" type="radio"/>	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う	<input type="radio"/>	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
		5.学習の過程で発見した課題を探究する	<input type="radio"/>	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	企業が競争的市場において生き残るための戦略を、経営戦略についての様々な概念や理論を理解し、企業が実際に取っている経営戦略を学ぶ。				
授業の狙い・到達目標	資源戦略、競争戦略、ドメイン戦略の概要を学び、「成長市場を探す」「自社の強みを生かす」「戦略を考える」など企業が実際に直面する場面ごとに、実現可能でよりよい戦略をどう描くのかについて学ぶことで、経営戦略の理論を習得することができる。				
授業内容のレベル・関連科目	経営学概論を事前に受講していることが望ましい。 経営学概論で学習した基礎的な戦略論をより深く学ぶ。				
授業外学習(予習・復習)	予習は、事前に配布資料を読んでおき、内容を理解しておくこと。 復習は、授業内容を振り返り、課題を提出すること。			授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教員が資料を配布する予定。				
参考書・その他教材	・榊原清則、『経営学入門』(上). 日経文庫. ・菅野寛、『全社戦略がわかる』. 日経文庫.				
課題に対するフィードバック	毎回課題を出題し、その内容を次回の講義で共有する。				
成績評価方法	最終レポート(50%)、小レポート(30%)、平常点(20%)				
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。				
履修上の注意事項や学習上の助言	授業後の振り返りを必ず行い、小レポートについては自身の身近な出来事や話題を用いながら作成すること。				
科目に関連した教員の実務経験	特になし				
担当教員への連絡方法	質問はメールやChatでも受け付ける。 メールの場合は、件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。				

1 回	学習内容 予習 復習	<イントロダクション> 授業の概要説明を行う シラバスを読んでおくこと 本日の授業内容を振り返る
2 回	学習内容 予習 復習	<経営戦略とは何か> 戦略と目標、目的、標的など戦略論の基礎を概説する 教科書の該当箇所を読んでくる 本日の授業内容を振り返る
3 回	学習内容 予習 復習	<資源戦略> 経験曲線と価格戦略、PPMなど資源配分の考え方について概説する 教科書の該当箇所を読んでくる 本日の授業内容を振り返る
4 回	学習内容 予習 復習	<競争戦略①> マイケル・ポーターの5フォースモデルなど、競争戦略について概説する 教科書の該当箇所を読んでくる 本日の授業内容を振り返る
5 回	学習内容 予習 復習	<競争戦略②> マイケル・ポーターの5フォースモデルを使って競争構造の分析を説明する 配付資料を読んでくる 本日の授業内容を振り返る
6 回	学習内容 予習 復習	<競争戦略③> 競争戦略としてのマーケティングについて説明する 配付資料を読んでくる 本日の授業内容を振り返る
7 回	学習内容 予習 復習	<ドメイン戦略> 事業領域や戦略領域など組織がやり取りする環境部分について概説する 教科書の該当箇所を読んでくる 本日の授業内容を振り返る
8 回	学習内容 予習 復習	<前半のまとめ> 第2～7回の内容を振り返る 第2～7回の内容を復習してくる 本日の授業内容を振り返り、小レポートを作成する
9 回	学習内容 予習 復習	<環境分析> 戦略を立てるための環境分析について考える 配付資料を読んでくる 本日の授業内容を振り返る
10 回	学習内容 予習 復習	<事業領域> ドメイン戦略について考える 配付資料を読んでくる 本日の授業内容を振り返る
11 回	学習内容 予習 復習	<事業戦略> 事業の戦略について考える 配付資料を読んでくる 本日の授業内容を振り返る
12 回	学習内容 予習 復習	<資源戦略> 全社における資源戦略について考える 配付資料を読んでくる 本日の授業内容を振り返る
13 回	学習内容 予習 復習	<戦略運営> 運営における仕組みと修正について考える 配付資料を読んでくる 本日の授業内容を振り返る
14 回	学習内容 予習 復習	<後半のまとめ> 第9～13回の内容を振り返る 第9～13回の内容を教科書、レジュメで見直しておく 本日の授業内容を振り返り、小レポートを作成する
15 回	学習内容 予習 復習	<全体のまとめ> 本講義のまとめと復習を行う 第8回、14回を中心に復習しておく 全15回の授業内容を振り返り、最終レポートを作成する